あらた同窓會

令和６年　春季号
令和6年3月25日発行

鹿児島大学農学部
あ ら た 同 窓 会
電　　話　099-285-8537
振替口座　02010-2-876

南九州市知覧町・御茶屋の場公園から見た開聞岳の日の出（2024年元旦）（村上慎一郎氏提供）

令和５年度会費納付のお願い

（会計年度：2023年10月１日から2024年9月30日）

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」（現在まで２万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています）の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生（学生会員）が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くためにも、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙（コンビニまたは郵便局）をご利用ください。

鹿児島大学農学部あらた同窓会報春季号(毎年3月25日発行)への「エッセー」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報・春季号」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。また、令和３年春季号から**「エッセー」コーナーを新設**して、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について会員からご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、これまで多くのご寄稿をいただき好評でした。本号にも多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。今後も、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿（ワードなどの電子ファイル）と写真（jpgなどの電子媒体）で、毎年１月末日までに事務局までにメールでお送りいただくか、「あらた同窓会HP」の【ご寄稿フォーム】（https://aratadousokai.org/contribute/contribute-form/、右QRコード）からご投稿ください。

※詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。

事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日　10：00～16：00
TEL・FAX：099-285-8537
E-mail: aratakai@aratadousokai.org
ホームページ：https://aratadousokai.org/
住　所：〒890-0065　鹿児島市郡元1-21-24

目　　次

1.会長挨拶
温故知新 ……あらた同窓会長　藤田　晋輔　2
2.学部長挨拶
卒業生と農学部の新しい門出 ……農学部長　寺岡　行雄　3
3.定年退職者等挨拶
鹿児島大学農学部で過ごした32年６か月 ……遠城　道雄　4
地域で学んだことは地域に返す ……地頭薗　隆　5
4.特別寄稿
令和６年度から農学部の新たな教育体制がスタートします ……濱中　大介　6
「あらた同窓会令和５年度総会および懇親会」を盛大に開催しました ……冨永　茂人　7
代々応援団長譲りの「破帽」の由来 ……八幡　正則　8
5.支部・職域便り
近畿・兵庫あらた会だより（令和５年度近畿・兵庫合同総会の概要）……藤岡　悦治・柳田　興平　9
『関西あらた同窓会』設立のお知らせ ……秋吉　博之　9
広島あらた同窓会 支部便り ……辻野　聡　10
令和５年度　福岡県庁あらた会懇親会報告 ……堤　慎太郎　11
鹿児島県と佐賀県の縁を深める ……森　敬亮　12
熊本あらた会　支部便り ……松野　佑哉　13
「アフターコロナ？」での鹿児島支部の活動 ……田中　重行　14
あらた同窓会鹿児島市役所支部総会、懇親会報告 ……伊東　一行　15
6.会員からの寄稿（エッセーなど）
新潮流 ……吉村　秀清　16
記憶の欠片（１）……藤岡　悦治　16
第二の故郷　『岡山』……寺尾　国一　18
離島種子島で苦戦！お楽しみ農業に取り組む（島生活その２）……永井　定明　19
園芸学科果樹園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり（第３回）……新堂　高広　20
私の禁煙顛末 ……白山　竜次　20
ベトナム中部高原での有機農業の展開に向けた活動 ……福山　誠　21
7.学生便り（卒業・修了にあたって）
あっという間の４年間、これからどう生きていくか ……大久保　成晃　22
この４年間を振り返って ……廣川　翔一　22
４年間の大学生活を振り返って ……林　侑紀　23
人とのつながり ……吉武　歩衣　23
大学生活を通して学んだこと ……米村　葉奈　24
日常生活で学んだことを ……大胡　燈　24
私の留学経験 ……平井　絢　25
8.恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報 ……事　務　局　25
9.本部便り ……事　務　局　26
10.役員名簿 ……事　務　局　31
11.会計報告 ……事　務　局　31
12.鹿児島大学農学部あらた同窓会会則 ……事　務　局　34
13.編集後記 ……樗木　直也

会長挨拶

温　故　知　新

鹿児島大学農学部あらた同窓会
会　長　　**藤田　晋輔**
（林Ｓ 37 卒）

令和６年３月ご卒業・大学院修了の皆様、おめでとうございます。皆様はこれから大学院進学、もしくは社会人として羽ばたかれます。これからの生活環境はこれまでと異なるので、100年人生を過ごすためにも必要な事は健康であることに留意され、これまで各々の分野で蓄積された成果を活用した活躍を祈念します。後先になりましたが、鹿児島大学農学部の在校生及び約16000名を越えるあらた同窓会会員のご存命の皆様、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年度もどうぞ同窓会へのご理解とご指導をよろしくお願い申しあげます。

ところで、昭和30年代まで「花粉症」なる言葉はないが、今では春先になると「スギ、ヒノキの花粉の飛散はじまる…」と報道され、花粉症に悩まされる時期がきた。日本固有のスギが主たる発生源とされ、日本人の四、五十％が花粉症を罹患していることから、今では日本気象協会のホームページに全国の花粉症予測マップが掲載されている。

昭和二十四、五（1949）年頃、戦後復興を目的とした木材需要のために膨大な木材供給が求められた。昭和31（1956）年から国策として全国津々浦の広葉樹林を伐採し、拡大造林、肥培木施業（固形肥料を散布）が推進された。選択されたスギの品種は明記されていないが、鹿児島県の場合、晩成型（伐期90年以上）であるサツマメアサは収穫までの期間が長すぎる事を理由として、早生型（伐期40年以上）のオビスギ（沢筋が適地）の植林が積極的に推進された。一般に樹木は植林後約20～25年で成木となるので、昭和60年代になるとスギ花粉の飛散が始まることから花粉症罹患が問題視された。同時期にそれまでの東南アジア材からの丸太輸入から、米国、カナダ、欧州連合等からの製材品輸入が急増し、日本のスギ林は放棄状態になった。戦後復興と生活様式の変化で、昭和31（1956）年早生型に変更した拡大造林施策の「ツケ（後始末）」が来たと考える、この頃である。

現在のスギ林が全国に拡大した生態（植生）的経緯（歴史）を調べると、諸説の中で屋久島を原点とし、四国に到達した後「太平洋側（オモテスギ）と日本海側（ウラスギ）」の二組に分かれる河田説（河田杰：1933）の支持者が多い。樹齢200～300年の秋田スギ、数千年を越えるヤクスギも含めて九州各地のスギのDNAはオモテスギ系で、日本固有種（*Cryptomeria japonica*）である（家入,1999）と言う。メンデルの法則が発表された1865年以前、蘭癖大名・学者大名として名をはせた江戸時代後期の薩摩藩第８代島津重豪【第25代島津家当主［延享２（1745）年～天保４（1833）年］】が、この晩成型のメアサ［鹿児島はサツマメアサ、肥後はヒゴメアサと呼称しているため、以下メアサとする］を御用木（藩用造林樹種）に指定し、伐期90年以上のメアサの造林（尾根筋が適地）を奨励、旧藩時代の造林（直挿し）はメアサに限定している（宮島1989）。明治以降は旧藩の縛りが無くなったが、建築用材として継続している歴史がある。1960年以降の鹿児島、九州および宮崎大学等の研究によると、メアサは社寺林や社叢林やご神木、参道並木等に樹齢100～700年の老木が残っており、これらのDNAはメアサと同一クローンの可能性が高いこと（宮島1989、家入、1999）、年輪が緻密で、心材は紅淡色・赤褐色で、物理的性質も優れており、挿し木の活着率も非常に高い事などを明らかにしている（藤田,1985）。メアサは早生型のオビスギより花粉量はかなり少なく、雄花芽が分化しないため球果の形成が見られないので花粉症には縁がないと考えられる（宮島,1989）。スギ花粉症が多い現在の「外気環境」から考えると、メアサは総合的に優れていると考えている。江戸時代後期の薩摩藩の古文書にスギ材の生物的要因（材質的知見およびDNAの分析技術等）を薩摩藩が認知していたか、否かは不明である。全国で200種を越えるスギ品種があるが、メアサの苗木は入手困難であると聞く（私信、吉野純一氏）が、一日も早く晩成型と早生型を混植し、従来の下層間伐でなく上層間伐と択伐間伐を行い、収穫材はエネルギーだけでなく、多種多様な建築資材の実用化（CLT：直交集成板等）が行われている。これから先、「造林と活用」手段の「共存競栄」の時代である。

学部長挨拶

卒業生と農学部の新しい門出

農学部長　**寺岡　行雄**

令和５年度の鹿児島大学農学部卒業生並びに農林水産学研究科の修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学部卒業生の皆さんは、コロナ感染症による生活や活動の制限がある中で大学に入学され、４年生の５月までよくがんばってきました。皆さんにとって、最後の１年間が充実した時間であったことを願っています。教職員を代表して無事に卒業され、新しい門出を迎えられることを心からお祝いしたいと思います。また、この日を迎えるまでの保護者の皆様の温かいご支援、友人や先輩・後輩、周囲の皆様の力添えへの感謝の気持ちを忘れてはいけません。

皆さんは、これからそれぞれ自ら決めた新しい道を歩んでゆくことになります。仕事を始め、新しい場所での生活になり、戸惑うことも多いでしょう。すべてが順調に行くことが稀であり、つまずくことも必ずあるでしょう。失敗を恐れず挑戦してゆく姿勢が大切だと思います。皆さんを見守ってくれている人が必ずいますから、一人で悩まず、相談することの勇気を持ってください。人生に与えられた時間には限りがあります。この限られた時間を上手に使って自分の人生を描いていってください。私たち大学教員は、皆さんが元気に活躍してゆくことを楽しみにしています。気軽に大学へ帰ってきて、お話を聞かせてください。

さて、鹿児島大学農学部は令和６年４月に大きな組織替えを行います。これまでの３学科を（新）農学科の一学科へと再編します。さらに、農業生産科学科畜産科学コースは共同獣医学部畜産学科へと移行し、農学部は植物・農林業生産系と食品系に重点化してゆきます。令和６年度の入学生は一括で入学し、４クラスに分かれて１年間を過ごします。その間に、農学キャリア教育を行い、自らの目指す進路のためのプログラムと履修科目の選択を行ってゆく仕組みになります。２年生からは４つのプログラム（植物資源科学、環境共生科学、食品生命科学、農食産業・地域マネジメント科学）に分かれますが、大部分の科目はプログラムにかかわらず履修することができます。狭い専門分野だけでなく、広く農学分野を学ぶことができます。これは、平成２年に行った獣医学科を含む７学科から４学科への改組以来の大きな改革となります。

1908年の鹿児島高等農林学校開学から116年目を迎え、長い歴史と伝統を有する農学部です。我が国には、創業から100年以上を経過した企業が３万７千社以上ありますが、伝統的な会社・組織が長く存続できたのは、時代や環境の変化に合わせて変わることができたからです。農学部も新しい発展のため、大きく変わることを選択し、新しい門出を迎えます。４月には農学科の新入生175名（特別コース含む）を迎えることになります。新しい農学部に大いに期待していただきたいと思います。

定年退職者等挨拶

鹿児島大学農学部で過ごした32年6か月

附属農場　**遠城　道雄**
（院農Ｓ 59 修）

私は、横浜出身で、大学院が鹿児島大学大学院農学研究科の修了であることから、あらた同窓会の会員となっています。1984年に院修了後、教員として農学部に採用されましたのが、1993年10月ですので、農学部で過ごした全期間は32年と６か月になります。ここまで書いて初めて気が付きましたが、現在、65歳の私にとって、半生を鹿児島大学で過ごした計算になります。「す、す、すごい！」と我ながら思います。

大学院時代の所属は熱帯作物学研究室でした。修論実験をほぼ、投げ出して、当時の南方海域研究センター（現：国際島嶼教育研究センター）の海外調査で１年次はフィジー、ソロモンに約1.5か月、２年次はパプアニューギニアに約１か月、先代かごしま丸で連れて行っていただいたことは、非常にすばらしい勉強になりました。院生から約９年後に本学教員として戻ってきてからも、この練習船でいく太平洋島嶼の調査は継続されており、何回か参加をさせていただきました。今、１か月大学を空けて、調査に行くなどということは、よほどのことがない限りはできません。いや、よほどのことがあってもできないでしょう。良い時代であったなあというのが、正直な感想です。練習船で行くことの良さは、いろいろな分野の先生方と知己になることができることです。一番近くの渡航国でも片道１週間は、島影ひとつ見ることはなく、360度が海の世界です。そして、甲板には出られますが、その間は完全な閉鎖空間状態で、‘寝る、食う、飲む、話す、たまに本を読む’だけになります。その中で、専門の先生方の講義が行われることがあり、専門外の知識はもちろんのこと、人間関係の勉強もできました。

鹿児島大学での最初の任地は農学部附属農場指宿植物試験場でした。温泉熱で農業施設の温室やハウスを加温するという独特の方法で、熱帯・亜熱帯植物を栽培しています。施設園芸を経験した方ならお分かりいただけるはずですが、施設加温に灯油や重油を使用しないということは、非常に画期的です。なぜなら、燃料代の価格の上下に一喜一憂する必要がありません。さらに、化石燃料を燃やすことで発生する二酸化炭素の心配も不要なことから、温暖化が大問題となっている現在にとって、大学として、世界に誇れる農業施設であると思います。農学部の前身である鹿児島高等農林学校初代校長、玉利喜造博士が設置されましたが、100年以上も前に温泉を利用して農業における加温方法を考えられた先生のご慧眼には、感服するのみです。このような施設で仕事ができることは、大変な喜びでもあるとともに、その責務の重さも痛感しながら、毎日、作物の栽培と教育を行っていました。

今の大学教員採用では、博士号の取得済みはほぼ必須事項ですが、私の時代は、教員をしながら、博士号を取得することが普通でした。私も着任してから、熱帯産ヤマノイモのダイジョを題材にして、本学の連合農学研究科で博士号を取ることができました。指導教員は以前、本同窓会の副会長をされておられました林　満先生で、林先生のご指導の下、ダイジョを題材に５名が博士（農学）号を取得し、私を含めて、現在４名が教授、１名は准教授となっています。これらはいずれも、指宿植物試験場を研究の中心として行ったものです。

このように、何とか、良い先生方、諸先輩、後輩、学生に恵まれて、ここまで歩んで来ることができました。現在、我が国の大学は、大きな岐路に立たされていると感じています。これまでとは異なる大波、小波が来るかもしれませんが、農学部たるもの、大地にしっかりと足つけた教育・研究に、歩んでいただきたいと願っています。長い間、ありがとうございました。

地域で学んだことは地域に返す

農林環境科学科　**地頭薗　隆**
（林Ｓ 56 卒）

私が鹿児島大学農学部に入学した1977年の６月24日に鹿児島市竜ヶ水で発生した大規模崩壊による土砂災害（９名死亡）は衝撃的な出来事でした。３年生になり、土砂災害の予測や対策を研究している下川悦郎先生の砂防学研究室に入り、1979年９月30日に台風16号による大雨で発生した屋久島土面川土石流災害を始めとして、災害現場に出かけることになりました。1981年３月に卒業して工学部助手となり、1983年３月に農学部配置換え、1991年10月に助教授、2007年４月に准教授、2013年２月に教授となり、教員生活43年が経過しました。

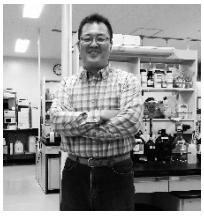
私が研究の対象とした土砂災害は、豪雨、火山噴火、地震によって引き起こされ、自然災害の中でも発生頻度が高く、大きな被害をもたらします。1993年鹿児島豪雨、1997年出水市針原深層崩壊、2011年霧島新燃岳噴火、2016年熊本地震など、定年退職の年まで各地の災害現場を調査してきました。災害現場では、住民、行政、マスコミ等から、二次災害の恐れはないか？避難はどうすればいいか？などの緊急対応の判断を求められることがありますが、何回経験しても胃が痛くなる思いでした。

近年の土砂災害をみると、明らかに大規模な土砂移動現象が多発しており、これまでに経験したことがない甚大な被害をもたらす土砂災害リスクが各地で高まっています。研究室では、このような大規模土砂災害を引き起こす土砂移動現象の発生場所と発生時期の予測研究に取り組んできました。研究室の学生は、砂防、防災に係わる技術者として災害対応に従事することになります。災害発生後、その原因や発生機構を調査し、緊急対応や復旧対策が求められる仕事です。そこで、自然環境を多面的に理解し、様々な自然現象を予測できる能力を培うために、講義による基礎学力に加えて災害現場での実践的な活動を重視してきました。卒論や修論の成果が住民の警戒避難や被災地の復旧・復興に役立ち、地域防災力の向上に貢献したと実感することができたと思っています。地域の防災力を高めるためには住民を巻き込んだ調査研究も不可欠です。たとえば、深層崩壊のような深い地下水が集中した箇所で起こる崩壊の発生予測には湧水の分布は重要な情報ですが、湧水箇所は地元の人、特にお年寄りはよく知っています。そのような情報を住民といっしょに落とし込んで防災マップを進化させれば自ずと防災意識も高まります。進歩し続ける防災技術と住民の意識や知識が乖離しない地域防災と人材育成の推進が望まれます。地域の防災活動を「地域で学んだことは地域に返す」という姿勢で、学生たちと取り組む毎日でした。この姿勢は先輩から後輩へ受け継がれ、卒業生はその精神をもって社会で活躍していることをうれしく思います。

18歳から65歳まで郡元キャンパスで生活しました。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。農学部およびあらた同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

特別寄稿

令和６年度から農学部の新たな教育体制がスタートします



学部改組ワーキンググループ担当
濱中　大介

農学部では、学部教育の新時代への対応とさらなる充実を目指して学部を改組し、令和６年４月より新たな教育体制がスタートします。これまでの３学科体制（農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科）から、１学科（農学科）・４プログラム（植物資源科学、環境共生科学、食品生命科学、農食産業・地域マネジメント）・１コース（国際食料資源学特別コース）体制となります。入学定員は、畜産科学コースが共同獣医学部と合流して畜産学科となることに伴って、現在の205名から175名となります。

農学部を取り巻く社会情勢は、これまでにないほど急速急激に変化しています。SDGsやSociety5.0への対応のみならず、地球規模で発生する気候変動や食料危機等への対応、さらには、関連産業を支えて地域を活性化するといった地域特有の課題解決の中核的存在として、新時代に向かって力強くけん引することができる人材を育成・輩出することが求められています。これまでも農学部では、日本で有数の食料基地に位置する鹿児島において、温帯から亜熱帯へ南北600kmにも及ぶ多様な自然環境を背景にフィールド教育を重視し、豊かな人間性と現場での実践力や応用力、広い視野と国際性を持った、新しい時代に向けた創造性豊かな人材の養成に努めてきました。しかしながら、担い手不足や耕作放棄地、林業事業地確保の困難さ、土砂災害などの防災意識の向上、スマート農業やDXなどの新技術開発の必要性、環境・生活・文化の多様性への配慮の必要性など、地方に位置する農学部として積極的に取り組み、解決しなければならない課題が山積しているのが現状となっています。

このような課題を解決すべく、①初年次の動機付けと将来の資格・職種を意識した「農学キャリア教育」、②「１学科４プログラム制」による農学総合力と専門性を併せ持った人材の育成、③南北600kmをフィールドとした実践教育と高度な専門知識の修得の両立、を今回の改組の目標としました。

農学部は、非常に多岐に亘る専門分野で構成されています。それは即ち、卒業後に目指す将来の姿も多岐に亘ることを意味しています。これまでは、学科やコース毎に提示された幾つかの典型的なカリキュラムに沿って受講し単位を取得すれば卒業できましたが、今後は必修単位数を大幅に減らしたことで選択肢が増えることになります。学生自身が「何を学び、何を身に付けるのか」という将来の目標を常に意識しながら、主体的に自分自身のカリキュラムを作ることになります。学生は、目指すべき目標に対して、学びの計画と振り返りをキャリアマップによって自己評価し、PDCAを意識して“目標”に対する“現在地”を確認しなければなりません。講義においても、資格や就職、養成される能力が明確となるように関連する講義群をグループ化して提示します。また、対面での受講が基本ですが、ほとんどの講義でオンライン・オンデマンド教材を準備することで、遠隔地への実習や海外留学先からも受講できる体制を整備します。さらに、実験・実習を除く講義科目には受講制限を設けず、農学全般の幅広い知識と俯瞰的な視野を身に付け、主体的かつ積極的に農学関連の課題を解決できる人材を育成する体制とします。

今回の改組では、学科の統合、畜産科学コースの共同獣医学部との合流、キャリア教育の導入といった、これまでにない大きな改革を行うことになります。現代の激動する社会においても、身に付けた確固たる専門知識と、総合的・俯瞰的視野を以て、関連分野における様々な課題に対して積極的・主体的に解決に取り組むとともに、鹿児島地域のみならず、日本全体、あるいはグローバルに活躍できる人材の育成に取り組んで参ります。

なお、詳細については農学部HP（https://www.agri.kagoshima-ac.jp/kaiso/kaiso04/　右QRコード）からご覧いただけます。

令和６年４月以降の新教育組織

農学部	農学科	●植物資源科学 PG：先進技術による植物資源の生産と活用を実現
		●環境共生科学 PG：生物多様性の保全と農林産物の生産活動が調和した持続的発展を実現
		●食品生命科学 PG：生物資源を分子・細胞・生体レベルで解析し食の発展と健康に貢献
		●農食産業・地域マネジメント PG：経営・経済学観点から農食産業と地域の持続的発展に貢献
		◆国際食料資源学特別コース（変更無し）

「あらた同窓会令和５年度総会および懇親会」を盛大に開催しました

常任副会長　**冨永　茂人**（園Ｓ 48 卒）

令和５年11月23日（木・勤労感謝の日・旧新嘗祭の日）に「鹿児島大学農学部あらた同窓会」令和５年度総会、懇親会を開催しました。

総会は、令和３年、４年に引き続き、300人収容の「農・獣医共通棟101号教室」で15：00～17：00に開催しました。出席者は52名でした。

総会は、田浦悟常任幹事（農Ｓ59卒）の司会で進められました。

「あらた同窓会」の藤田晋輔会長（林Ｓ37卒）および寺岡行雄農学部長の挨拶の後。岩井久氏（農Ｓ55卒）を議長に選出し、事務局から令和４年度の活動報告（案）、会計報告（案）等、令和５年度の活動計画（案）、予算案等の議題が提案され、審議しました。審議の結果いずれも異議なく了承されました。

議題および審議結果の詳細については本号26ページからの「本部だより」に記載していますのでご覧ください。

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」（稲盛記念館）に移動し、17：30～19：30まで４年ぶりに懇親会を開催しました。懇親会の出席者は50名でした。

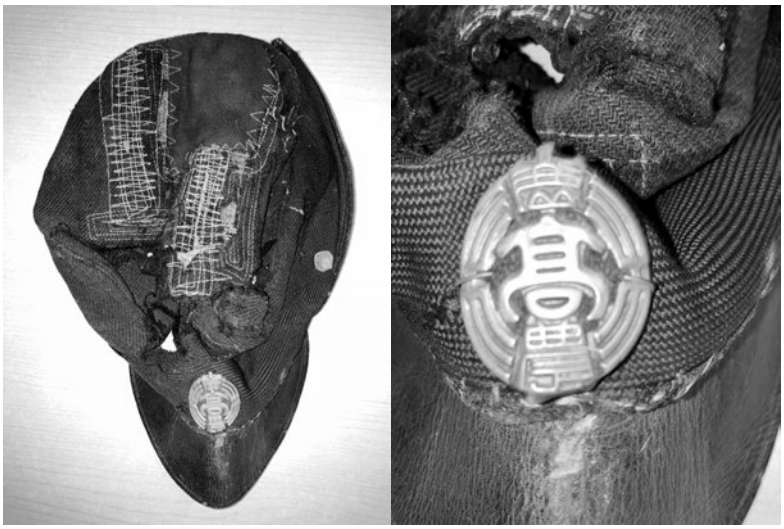
懇親会は、欠席の藤田会長に代わり、「あらた同窓会」副会長の佐野岩男氏（農Ｓ49卒）の挨拶で始まりました。続いて、寺岡農学部長、前田芳實鹿大前学長（畜Ｓ42卒）、保岡宏武衆議院議員（院資Ｈ23修）の挨拶があり、懇親会が始まりました。実に４年ぶりの開催でお互いの再開を喜び合い、にぎやかな懇親会となりました。懇親会の途中では「第44回農協人文化賞」を受賞された下小野田寛氏（農昭Ｓ58卒）と松本秀一氏（農Ｓ44卒・ご欠席）について八幡正則氏（農Ｓ26卒）から紹介があり、出席された下小野田氏からお礼のご挨拶がありました。楽しい時はあっという間に過ぎ、鹿児島高等農林学校校歌「緑したたる南洋の…」のCDが流され、出席者が口ずさむ中、懇親会は終了しました。

なお、令和６年度の総会・懇親会は令和６年11月23日（土）に開催される予定です。

代々応援団長譲りの「破帽」の出来

鹿児島支部　**八幡　正則**（農Ｓ 26 卒）

１年生の秋のこと。恒例の運動会の前日、クラス総務をやっていた私に上級生から応援団のリーダーを決めておけとの指示があった。クラスの連中に「誰かやらないか」と言ったが手が上がらない。当日、マイクから「リーダーは前に」との声が流れたとき、クラスの皆が「八幡、やれ」という。こうなれば総務の責任上やらざるを得ない。前に出たら上級生から「団長はこれをかぶれ」と頭に載せられたのがこの破帽である。



鹿児島高等農林学校学帽

天井はボロボロでミシンの跡がある。後ろは二つに裂けているが、皮の鍔は厚くて蛇腹もしっかりしている。徽章（バッジ）の文字は『**鹿高農**』と明らかである。市民から「高農さん」と親しまれた名は、昭和19年に専門学校令改正で「農林専門学校」となった。しかし、戦時逼迫で「校歌」もなければ「徽章」もない。やがて敗戦となる。空襲で全焼した母校は、コの字型本館の焼け跡コンクリート台座の南側にバラック建て校舎が４～５教室。北側に事務室が並んだ端っこが校長室である。入学時には新調する学生服も帽子もなかった。混乱の中に存在した農専は、昭和24年スタートの鹿児島大学に包含された。そして高農から数えて第40回生の私どもが卒業した昭和26年３月に閉校した。受け継がれた応援団長の破帽を譲るべき後輩はいない。折しも開学100周年記念行事の平成21年に、どこかにあるはずと探したら出て来た。当日、私は羽織袴姿で壇上に上がり、農学科の応援歌ではこの帽子をかぶり、校歌斉唱のときは鉢巻に替えて音頭をとった。

鹿児島大学農学部100周年記念祝賀会（2009年）

冨永副会長がこの破帽に目を留められ、学内に保存するから一文を書けとのこと。百余年前の開学に思いを致し、伝統を伝える一助になればと駄文を草した次第です。

支部・職域便り

近畿・兵庫あらた会だより（令和５年度近畿・兵庫合同総会の概要）

近畿あらた会　常任幹事　**藤岡　悦治**（農Ｓ 46 卒）
兵庫あらた会　常任幹事　**柳田　興平**（獣Ｓ 46 卒）

寺岡農学部長のご挨拶

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和２年度から４年度まで開催を見合わせていた通常総会は、５月28日（日）13時からＪＲ尼崎駅北側のホテル「ヴィスキオ尼崎（旧ホップインアミング）」で14回目の合同総会となりました。

当日の総会には、本年４月に就任された寺岡行雄農学部長（農林環境科学科地域環境システム学コース教授）のご臨席をいただき、総勢14名で和やかに行われました。

はじめに、前回の総会後、ご逝去されました山本稔前兵庫あらた会長並びに内田昭近畿あらた会長をはじめ10名の諸先輩方に黙祷をしてご冥福をお祈りしました。

つづいて、本部同窓会副会長で近畿あらた会の浮津護前会長（林Ｓ38）が「命を大事にして生きよう」、兵庫あらた会の山本高徳副会長（農Ｓ37）が「若い人は趣味を持って健康管理に努めよう」と挨拶をされました。

次に、寺岡農学部長から母校の最近の動きをお話しいただきました。

① 佐野輝学長は神戸大学医学部出身で2019年４月から就任されているが、更に２年間（2025年３月まで）延長された。
② コロナウイルスの感染拡大でオンライン授業が２年続き先生方も戸惑ったが、昨年後期から対面授業が始まった。
③ 過去２年間は入学式・卒業式は代表のみ集めて式典が行われた。
④ 昨年８月24日に逝去された稲盛和夫名誉博士のお別れの会が12月19日に開催された。
⑤ 曽於市の財部高校跡地に同市と本学が連携し、「南九州畜産獣医学拠点」を令和６年４月の開設を目指して整備を進めている。
⑥ 農学部は2024年に現行の３学科＋１コースから農学科１学科（４つの専門プログラム）＋１コースに改組される。

その後、記念撮影の後、13時30分には寺岡農学部長の乾杯の音頭で祝宴に入り、恒例の全員からの近況報告に質疑応答を交えながらビールと焼酎「七夕」などを酌み交わして歓談が盛り上がりました。

なお、出席者は兵庫８名、近畿５名の計13名であり、両会とも出席者の固定化・高齢化が進んでおり、事務局を30年間担当している藤岡・柳田常任幹事共に来春には後期高齢者となることから、『関西あらた同窓会』として近畿２府４県に広げて若い卒業生の加入促進を図ることが必要と思われるので、秋吉博之氏（化Ｓ55）に会長をお願いしたいと提案し、一同の賛同を得ました。

最後に、田代善和氏（畜Ｓ46）と太野垣賢治氏（工Ｓ49）の発声で「北辰斜めに」と「鹿児島高等農林校歌」を合唱し、16時に祝宴を閉じました。

なお、来年は５月26日（日）、同会場で『関西あらた同窓会』として設立総会の開催を予定していますので、関西地区在住の卒業生の皆様もお誘いあわせの上、お気軽にご参加下さい。

出席者全員の集合写真と寄せ書き

『関西あらた同窓会』設立のお知らせ

関西あらた同窓会長　**秋吉　博之**（化Ｓ 55 卒）

令和５年５月28日（日）13時から令和５年度近畿・兵庫あらた同窓会の14回目となる合同総会を寺岡行雄農学部長 （農林環境科学科地域環境システム学コース教授） にご臨席いただき、JR尼崎駅北側のホテル「ヴィスキオ尼崎（旧ホップインアミング） 」で開催しました。

近畿あらた会常任幹事の藤岡悦治氏（農Ｓ46）と兵庫あらた会常任幹事の柳田興平氏（獣Ｓ46）にご尽力をいただき、両あらた会支部はこれまで永年に渡り企画・運営されてきました。今回の合同総会で両氏から、近畿・兵庫の両あらた同窓会を発展的に統合し近畿２府４県に広げて若い卒業生の加入促進を図るとの趣旨から『関西あらた同窓会』の設立が提案され、出席者から賛同を得ました。さらに新設の『関西あらた同窓会』会長には、秋吉博之（化Ｓ55）が推挙され承認されました。

多くの先輩方がおられるなかで会長への就任に戸惑いもありますが、会員の皆様にご協力をいただき、これまで積み重ねられた伝統を継承して『関西あらた同窓会』の発展に尽力していく決意です。

新設『関西あらた同窓会』総会は、令和６年５月26日（日）13時からJR尼崎駅北側のホテル「ヴィスキオ尼崎（旧ホップインアミング）」で開催の予定です。関西地区在住の卒業生の皆様もお誘いあわせのうえ、お気軽にご参加いただきますようご案内いたします。

広島あらた同窓会 支部便り

広島あらた会　幹事　　**辻野　聡**（林Ｈ２卒）

令和５年12月９日（土）12時～広島市内の名店「むすびのむさし土橋店」にて、第72回広島あらた同窓会総会を開催しました。昨年とは打って変わり12月というのに暖かな、まさに小春日和の土曜の昼間、総勢10名の同窓生が開始時刻の１時間前ごろから燦燦囂々集まり、定刻５分前には始めることが出来ました。

「何処の同窓会に出てもこの頃は最上席となってしまった」と苦笑いの平野朝彦会長（林Ｓ38卒）の挨拶に始まり、この春に農学部長となられ、今回本部からお招きした寺岡行雄教授の挨拶と乾杯の音頭で懇親会は始まりました。皆が盃を傾け、美味しい料理に舌鼓を打つ中、幹事による前年度会計の収支報告と欠席者の近況、そして今年取り組んだ改訂卒業者名簿に基づく新規勧誘活動の結果について報告を行 った後、参加者による近況報告へと移りました。今回は、来賓の寺岡教授に加え、寺岡教授のご紹介で、教え子である池沢愛奈さん（環Ｒ２卒）が初めて参加されたことと、原口曜江さん（生Ｈ９卒）が来春から鹿児島県庁へ社会人枠で入庁（転職）される、というサプライズ報告もあり、いつもより賑やかな会となりました。近況報告も済んだ終盤には、参加者同士があちこちで杯を片手に立ち話をする様子も見られ、最後は田丸猛副会長（蚕Ｓ39卒）による締めの挨拶で盛況のうちに閉会しました。

出席者の集合写真

盛り上がる懇親会の様子

寺岡農学部長による乾杯

今回の総会を通じて、寺岡教授から同窓会活動はどこも厳しい状況とお聞きしていましたが、当会においても、今回改訂された同窓会名簿を基にした支部総会への新規勧誘活動の結果は、返信すらいただけない等惨憺たる状況でしたが、そんな中でも何名かの方は次回案内を希望されており、まだ望みはあると感じています。「同窓会は（生きる）励みになっている」と話される先輩方もいらっしゃるうちは、非力ながら来年も頑張っていこうと思います。

令和５年度　福岡県庁あらた会懇親会報告

福岡県庁あらた会　幹事長　　**堤　慎太郎**（農Ｈ２卒）

令和６年２月３日、頤和園博多駅前店において、福岡県庁あらた会を開催しました。県庁あらた会は、毎年２月第一土曜日に開催していますが、令和元年度～３年度の３か年は、新型コロナウイルス等の関係で開催を見送り、令和４年度から再開したところです。今年度も無事開催できることができ、当日はOB、現役職員51名の参加がありました。

また今回は、鹿児島大学農学部あらた会同窓会本部から、冨永茂人常任副会長（鹿児島大学名誉教授）にもご参加いただきました。

当日は、笹川文彦会長（農Ｓ63卒）の挨拶に始まり、次に冨永副会長から、ご挨拶とあわせて、あらた同窓会や鹿児島大学農学部の近況をご報告いただきました。

この後、例年であれば、今年度退職される先輩及び新会員の紹介を行いますが、今年から定年年齢の引上げが始まることもあり、定年での退職者は不在であったため、引き続きあらた会初出席の４名の若手会員の自己紹介をしていただきました。また、今年度ご逝去された先輩に謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

全員で記念撮影

全員で写真撮影の後、松本博之先輩（総Ｓ37卒）の乾杯の音頭で宴会が始まりました。ＯＢの先輩、現役の先輩、後輩、若手職員が入り乱れて、久しぶりの再開を懐かしんだり、お互いの近況報告や大学時代の昔話に花が咲き、２時間余りを楽しく過ごしました。

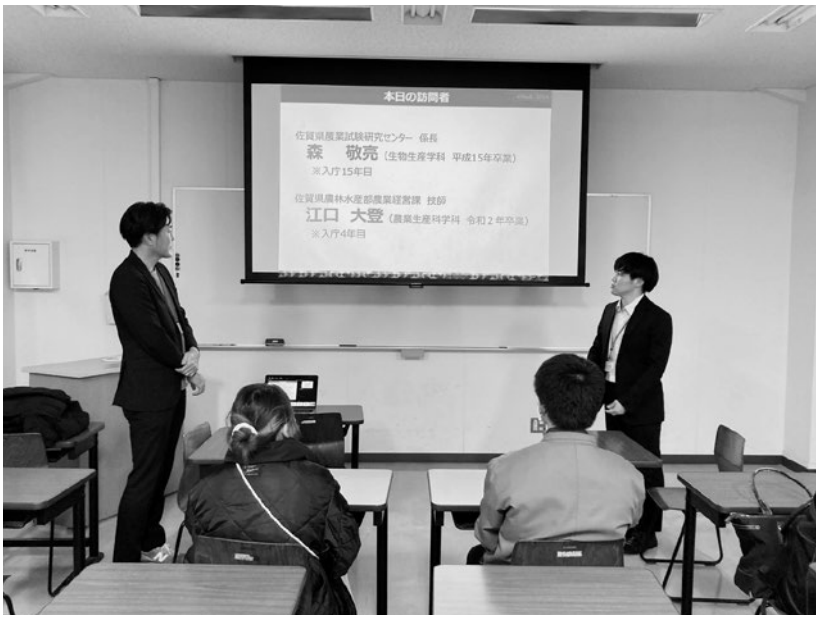
最後は、「北辰斜めに」と「鹿児島高等農林学校校歌」の合唱です。松本和紀副会長（農Ｓ62卒）による巻頭言の後、全員で肩を組んでの大合唱となりました。そして、井上尊尋先輩（農Ｓ39卒）の万歳三唱で、盛会のうちにお開きとなりました。

県庁あらた会は、鹿児島大学農学部という縁のもと、普段話す機会のないＯＢの先輩方、そして他課の先輩、後輩との交流ができる貴重な時間です。これからも会長をはじめ役員一同、この伝統を受け継いでいきたいと思います。

鹿児島県と佐賀県の縁を深める

佐賀あらた会　代表幹事　　**森　敬亮**（生産Ｈ 15 卒）

ここ数年、佐賀県庁では定年退職者が多く今後も続く見込みであり、また、全国的な人手不足、人材獲得競争が激化しています。そういった中で、佐賀県庁では九州山口各県の大学農学部へOBを派遣し、農政職・畜産職へのスカウト活動を行なっています。今回、農学部長の寺岡先生、あらた同窓会の冨永先生の協力を得て、鹿児島大学での説明会を１月10日に開催しました。鹿児島市出身と唐津市出身の２名の学生が参加され、熱心に説明に耳を傾けてくれました。



説明会の模様（左：森、右：江口・農生Ｒ２卒）

佐賀県庁の採用試験は、現在、通常の採用試験より数ヶ月早く採用が決まる特別枠（通常の採用試験との重複受験可能）、UJIターン者採用試験など多くの形態で行われています。佐賀県庁には過去、農学部の前身に当たる鹿児島高等農林学校出身で佐賀県庁農林部長を務めたのち県知事に転身した香月熊雄先輩をはじめとして鹿児島大学農学部出身者が多数在職してきた歴史があります。是非、佐賀県庁で共に働き佐賀県農業をより良くするために頑張ることができる後輩が入ってきてほしいと思います。

SAGAアリーナ（SAGA2024国スポ全障スポ会場）

また、今年10月には、国民体育大会（国体）に代わって新たに始まる国民スポーツ大会の第１回目の大会が佐賀県で開催されます。昨年は最後の国体が鹿児島県で開催されましたが、これは2020年に開催予定だったものの新型コロナウイルスの影響により開催できなかったのを、2023年に開催予定だった佐賀県での国民スポーツ大会を2024年に延期し、2023年に開催したものです。この縁で佐賀県と鹿児島県は「佐賀・鹿児島エールプロジェクト」という事業を行なっています。これはスポーツを始めとして、産業・文化など様々な分野で交流を行うものです。

これを契機に今後ますます佐賀県と鹿児島県の交流が深化することを願っています。加えて佐賀県庁への入庁希望者も増えてほしいと期待しています。

熊本あらた会　支部便り

熊本あらた会事務局　書記　　**松野　佑哉**（生産Ｈ22卒）

令和５年11月24日、アークホテル熊本城前において、第52回鹿児島大学農学部同窓会熊本あらた会総会及び懇親会を開催し、42名の出席がありました。令和２年～４年は、新型コロナウイルスの影響で中止又は書面開催としたため、対面では４年ぶりの開催でした。議事に先立ち、ご逝去された先輩方に、謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

総会は、柳井副会長（林Ｓ42卒）の挨拶に始まり、次に鹿児島大学寺岡行雄農学部長から来賓のご挨拶をいただきました。提案された令和２年、３年、４年度会務報告及び収支決算、令和５年度会務計画及び収支予算、役員改選について事務局が説明を行い、異議なく承認されました。

懇親会は村田新会長（農Ｓ51卒）の挨拶、乾杯に始まり、宴の途中では寺岡行雄農学部長より大学の近況等をご報告いただきました。その他、会員自己紹介ということで、老若男女５名の方に、笑いを交えながら自己紹介をいただき、大いに盛り上がりました。また各テーブルでは、久しぶりの再会を懐かしみ、お互いの近況報告や大学時代の話に花が咲いていました。

最後は、皆で北辰斜めを歌ったあと、古田新副会長（畜Ｓ60卒）に締めていただき、散会しました。

出席者の集合写真

村田新会長による乾杯の挨拶

「アフターコロナ？での鹿児島支部の活動」

鹿児島支部常任幹事　**田中　重行**（園Ｓ 62 卒）

あらた同窓会会員の皆様、こんにちは。

私は、令和５年４月の半ばから鹿児島支部の常任幹事を務めてさせていただいており、県のOB職員が中心となって務めております公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会で勤務しています。

「アフターコロナ」と言っていいのか迷いますが、鹿児島支部の活動について、ご紹介させていただきます。

当支部は、現在、鹿児島大学、県（農政部、環境林務部、農業開発総合センター、鹿児島地域振興局）、鹿児島市役所、県農協連、サンケイ化学㈱及び当協会の鹿児島市内を中心とした９所属の会員で構成されています。支部の令和４年度末（令和５年９月末）で、会員数は359人となっています。

令和２年からのコロナの影響で、それ以前の状況と社会生活や仕事など、いろいろな面で大きく変化しており、当支部及び各所属での活動にも影響が出ているようです。

このような中ではありますが、当支部は、役員が同窓会本部の評議員になっており、本部の会合・行事や本部と支部各所属との連絡・調整には、極力支障が出ないよう努めてきています。

さて、令和５年度（令和５年10月１日から）が始まって、数か月が経過していますが、12月の総会で決まりました令和５年度の事業計画及び予算の主な内容は、次のとおりとなっています。

１　主な事業計画

・　４月の人事異動後の支部の「会員名簿の作成及び会費徴収」
・　本部に係る会合等への出席
・　今後の支部運営等の検討　など

２　収支予算

（収支の部）　　（支出の部）

支部交付金	140,000 円	会　議　費	160,000 円
繰　越　金	1,612,554 円	交通通信費	20,000 円
雑　収　入	446 円	消耗品費等	20,000 円
		予　備　費	1,553,000 円
計	1,753,000 円	計	1,753,000 円

※対前年度比較増減　収入、支出とも△72,000円

・　支部会費（500円／人）は、徴収しない。
・　支部交付金及び繰越金の一部を活用し、活動を実施する。

令和５年度の活動については、これまでの活動同様、本部の会合・行事や本部と支部各所属との連絡・調整を優先し、支部各所属独自の活動にも配慮しながら、支部の今後の活動・運営のあり方等の検討などを行うこととしています。

最後になりましたが、あらた同窓会本部の活動・運営にも微力ながら寄与していきたいと考えています。同窓会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

あらた同窓会鹿児島市役所支部総会、懇親会報告

鹿児島市役所あらた会　幹事　　**伊東　一行**（生産Ｈ 15 卒）

あらた同窓会鹿児島市役所支部は、会員101名にて活動しており、年一回の総会及び懇親会の開催、本部総会への会員派遣、記念品の配布などを行っています。それが、事務、土木、農業、獣医師などの多様な職種の会員が在籍していることから、情報交換の場として活用されています。

しかしながら、令和２年度から令和４年度にかけて新型コロナウイルスの影響で、総会及び懇親会を開催することができませんでした。その間に、新入会員が10名増えましたが、交流を深めることができませんでした。

猿川新会長による挨拶

今回、新型コロナウイルスの影響も少なくなってきたということで、令和６年２月５日に４年ぶりに総会及び懇親会を開催いたしました。参加会員は例年より少なく51名でしたが、久しぶりに再会した会員のみなさんは、口々に開催できてよかったとおっしゃっていました。

総会では、猿川博久会長（農工Ｓ63卒）と濵田典雄副会長（農工Ｓ61卒）が選任され、新体制がスタートしました。また、懇親会では、抽選会を開催し、抽選結果に一喜一憂しました。コロナ禍で自己紹介ができなかった新規入会会員のあいさつでは緊張している表情ではありましたが、入庁してから日がたっている影響なのか、今後の目標などをしっかりと発表している姿をみて頼もしく感じました。

あらた同窓会常任副会長の冨永先生にも参加していただいて大いに盛り上がり、楽しかった大学時代を思い出すことができました。

最後になりますが、同窓会の幹事を務めて感じるのは、新規会員や若手会員の同窓会離れです。コロナ禍以前は、ほぼ100％入会していただいていましたが、ここ２年間はそうではなくなりました。総会等を開催できなかったことも一因であると思いますが、魅力ある同窓会活動や情報交換を行って市役所生活にプラスになったと感じてもらえるよう頑張っていきたいと思います。

会員からの寄稿（エッセーなど）

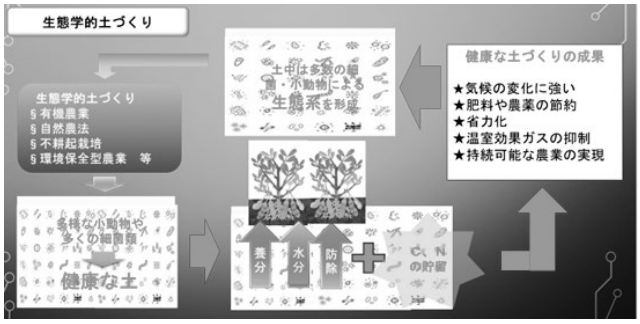
新潮流

関東あらた会　**吉村　秀清**（農Ｓ47卒）

最近注目されていることに「生態学的土づくり」がある。取り組みもさまざまで、一番ポピュラーなものは有機農業であるが、その他にも環境保全型農業、自然農法、協生農法、不耕起栽培等々多様である。いずれも共通しているのは“土づくり”である。それも“生態学的”ということである。その意味を少し考えてみたい。

我々は、農業の基本は「農地の耕起から」と教わり、長年信じ込んできた。しかし、生態学土づくり農法では過度の耕起を薦めない。その理由は、土の内部は膨大な細菌や小動物により生態系が形成されており、そのことによって、栄養、空気、水分を植物に補給し、病害虫の発生を抑制し、更には炭素や窒素を貯留して温暖化を抑制する機能を持っており、大型機械で耕起すると土の中の生態系を破壊し、土が本来持っている機能を弱めてしまうということだ。弱くなったことを補うために、農薬や化成肥料の投入が必要になってくる。こうして土が土でなくなってくる。

これまで有機農業等に対する批判的意見として、収量が落ちる、手がかかることで大規模栽培はできない、科学的でないといったことからなかなか普及してこなかった。しかし、最近の実践者の報告では、土壌中の生態系が落ち着いてくると慣行農業とそん色ない収量も可能であると述べている。また、作付け規模の問題もこの農法に即した農業機械も開発されており大規模の途も開けつつある。何よりも驚くことに米国の農業者は半数以上が土づくりを重視した農法を取り入れており、政府も大いに推奨しているという事実である。最近、翻訳されて出版されたゲイブ・ブラウンさんという米国の農家の取組は2,000haの生態学的土づくりをベースとした経営だ。また、最近では日本の土壌学や生態学でもこうした農法を評価する研究者も出てきた。



（図）生態学的土づくりの仕組み（著者作成）

農業は持続可能な姿が望ましい。少しでもその方向に近づけることが将来世代に対する私たちの責任ではなかろうか。

記憶の欠片（１）

近畿あらた会　**藤岡　悦治**（農Ｓ46卒）

【南へ】

鹿大の入試は東京芸術大学で受けた。入学式が初めての鹿児島だった。

その夏には、ブラジルへ移住者を送り出した“移住母村”調査のために 奄美大島宇検村に出かけ、その足で石垣島のパイナップル畑・缶詰工場での実習に向かった。宇検村で見た満天の星の美しさは衝撃的で、今も脳裏に鮮明に印刷されている。

これらは、入学後すぐに入部した“中南米研究会”活動の一環であり、石垣島実習は当時、沖縄経済を中核的にけん引していた㈱琉球殖産の社長が高農の卒業生であった縁で、快く受け入れてくれたものである。

その時、「鹿児島にいる間に、赤道まで行ってやろう」と考えた。その後、何度にも分けて観光・バイトなどで南西諸島を歩き、卒業に合わせてミンナダオ島までたどりついた。同期の南伸一君（故人）が海外青年協力隊の一員で同島に赴任していたことが幸いした。

赤道までは行きつかなかったが、北緯７度、世界有数の美しさを誇るサンボアンガの海に沈む夕陽は絶景だった。

【イスラム教徒】

エミレーツ航空が関空～ドバイ便を新設したことを契機に、初めてドバイに向かった。イスラムの戒律が比較的厳しいアラブ首長国連邦では、ホテルのレストランなど特定のところでないとアルコールを楽しむことができない。このため、到着後の空港で24缶入りのビール（免税）を買って、ホテルの冷蔵庫で冷やした。

ウズベキスタンにて（右端が筆者）

砂漠のドライブツアーを申し込み、ビールを片手にホテルの玄関でワゴン車を待っていると、いかつい運転手が出てきて怖い顔でビールを指さしている。はじめは要領を得なかったが、はっと気づいて残りのビールを溝に流した。同じ日、理髪店の様子を撮ろうとカメラを構えていると、店主らしきおじさんがこちらを指さし怒鳴っている。迂闊であった。

中国・新疆ウイグルのカシュガルを旅したときは、豚に対しては強烈な嫌悪感を示す一方、アルコール類に対しては極めて寛容だった。また、子供たちにカメラを向けると走り寄ってきて“自分を映せ”とせがんだ。

ウズベキスタンを訪れた時は、現地ガイドが「この国では酒も豚肉も自由です」といったときも驚いた。それなりに厳しく戒律を守る人もいるのだろうが、我々の食事時は必ずといってよいほどビールを注文できた。中国料理店内でも現地のおじさん、おばさんたちが楽しそうに飲み食いしていた。

同じイスラム教徒、同じ戒律に生きているはずなのにずいぶんと扱いが異なる？？

【ミャンマー】

中国は、東は山海関から西のカシュガルまで三十数次にわたって旅をした。次に目を付けたのがインドシナ半島であった。ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、今になって特に印象に残っているのはミャンマーである。

関空⇔ヤンゴン便の新設に伴いはじめてヤンゴンなどを旅した。10年ほど経て再び、旅行仲間を誘ってミャンマーへ向かった。いずれもアウンサン・スー・チー女史が軟禁されたままの軍政下の時代で、ホテルの建設もほとんど進まず２回とも同じホテルだった。見た目に経済状態は10年間ほとんど変わらず、相変わらず“アジアの最貧国”のまま、ただし相変わらず治安は安定しており、マンダレーの王宮や、広大なパゴダ群で著名なパガンなどを巡った。

2011年３月の総選挙を受け、23年間の軍政から民政移管が実現した。これは見逃すわけにはいかない。

2012年12月、再び仲間を誘ってミャンマーに出かけた。“最貧国”と同時に“アジア最後のフロンティア”と位置付けられ、道路をはじめインフラ整備が急ピッチで進み、日本からも多くの企業が進出を試みた。旅行計画はできてもホテルが取れない状態で、しばらく待ったがかかったほどである。

この旅の目玉はミャンマー中北部にあるインレー湖だった。少数民族インダー族がいまなお水上生活を営んでいる。

極め付きが“カックー遺跡”である。湖のほとりにあるインディン遺跡と並び紀元前にさかのぼる遺跡である。約2500基の仏塔が立ち並ぶ姿は壮観である。

2010年にやっと開放された遺跡で、当時は近隣の都市タウンジーでパオ族のガイド（左写真）を同行させなければ入域が許されなかった。ちなみにパオ族は自らを“龍の子孫”と信じ、頭にかぶる布はその象徴である。民政化を踏まえた、まさしく“平和な時代のシンボル”のような遺跡の開放だろう。

この辺りはゴールデン・トライアングルと称され、かつてケシが栽培されていたようだが、少数民族との和平交渉が進み、すでに消滅していたようだ。

ロヒンギャについては、当時も国内各地での暴動が報道されていたが、ローカルな課題であり落ち着くだろうと楽観していた。

それがどうだろう。ロヒンギャ問題が先鋭化し、2021年にはクーデターによって軍政に戻ってしまった。詳しくは報道でしか知りえないが、インレー湖上に住む少数民族や、遺跡を案内してくれたパオ族の女性（ナンさん）をはじめ平和に見えた人々は今どうしているのだろうか。いまミャンマーに出かけるのが厳しいだけに、人々の笑顔を思い出すのがつ

らい。
　ヤンゴンやパガンの壮麗なパゴダ群など全国に散らばる仏教遺跡は、カンボジアのアンコール、ベトナムのミーソン、ラオスのルアンプラバンなどに決して引けを取らない。
　平和なミャンマーの人々が、再び私たちを笑顔で出迎えてくれることを強く願っている。

第二の故郷　『岡山』

岡山あらた会会長　**寺尾　国一**（農工Ｓ45卒）

　岡山あらた会は、令和元年５月26日から３年間コロナ禍で開催できませんでした。今回あらた同窓会本部より支部便りの寄稿の依頼がありましたが、会員の皆様には会えず、ネタ不足で苦慮しました。
　大学を卒業して、岡山の藤井製作所（現在ヤンマーアグリ株式会社）入社以来50年この地岡山市中区藤崎に住んでいます。（２年間だけ、京都山崎のヤンマー中央研究所に出向。現在は、米原に移転。）
　現在は、後期高齢者となり、学区連合町内会・学校等のボランティア活動でボケ防止の為頑張っています。そこで、この地『操明学区』とヤンマーアグリ㈱岡山工場をご紹介いたします。操明学区（操南学区から28年前に分離）は、自然にできた土地でなく、人間が作った土地の一部です。ここは「沖新田」と呼ばれ、むかし干拓という大工事によって生まれたところです。

東西を百間川、旭川に囲まれ、南を児島湾に面しています。

津田永忠公銅像

　今から380年ほど前、岡山藩主池田綱政が家来の津田永忠に命じて、新しい田んぼの計画を立てさせました。児島湾の中に堤防を作ることによって、東は百間川、西は旭川までの1810ヘクタールの広な土地が出来上がったのです。
　見渡す限りの田園風景であった新田場も昭和40年代後半から建設がすすめられてきた産業道路の開通と新岡山港の整備に続き、昭和58年には児島湾大橋が完成。平成４年には岡南大橋が開通。交通網の整備が進むとともに、企業や施設の進出が盛んとなりました。
　さらに岡山市の中心部に近いという立地条件から宅地開発も進み、平成８年４月に操南学区より分離独立しました。大企業も多く、この地にヤンマーアグリ（株）岡山工場があります。
　農業機械の主力商品の中、トラクターは専用ライン、春・秋需要の田植機・コンバインは混流生産ラインで生産し、需要変動に応じて生産量のバランスを調整する事で、在庫と作業の平準化につながり、結果、品質の一定確保を保たれるとのことです。

トラクターの組立ライン

　岡山県は「晴れの国」と呼ばれています。「晴れの日が多い」、「温暖な気候。災害が少ない」、「美味しいものが多い」、「自然がいっぱい」が理由です。白桃・マスカット等の果物、瀬戸内海の新鮮な魚等美味しいものがたくさんあります。
　住めば都と言いますが、この地を「第二の故郷」と誇りに思い過ごしています。在校生の皆さん、岡山県に就職しませんか。お待ちしています。
（参考：操明学区連合町内会ホームページ）

離島種子島で苦戦！お楽しみ農業に取り組む（島生活その２）

大分支部長　**永井　定明**（農Ｓ52卒・71歳）

前回離島の棲家の改修に続き、今回は残された人生いかにして念願のお楽しみ農業が実現できるか、そのプロローグと取り組み経過をレポートする。

開拓前のジャングル畑

県職現役時代に花き普及指導員を数年担当したことがある。実践経験が乏しいため自信のない知識技術で農家指導を行っていた苦悩が頭からずっと離れないでいた。いつかはその不安を解消すべく自分で農業を体験してみたいと思っていたので、少々歳を取り過ぎての取り組みとなってしまったが「お楽しみ農業」程度で始めることにした。

開拓後

お楽しみ農業の基盤は農地である。妻名義の畑が全部で２haとちょっとあり、このうち約２haは基盤整備され専業農業者へ貸し出し中、残り少々の畑は荒れ放題となっていた。お楽しみ農業の開始にあたっては南種子の専業農家に迷惑をかけたくないとの思いから、残る未整備の荒れ地を開墾して農園にしていく以外になかった。

畑は２a、６ａ、11ａ、14ａと4か所に分散し荒れ放題、２ａは県職現役時代に盆休みを利用して切り開き既にカボスを植栽していたので、家に近い６ａの荒れ地開墾にとりかかった。背丈の２倍以上の高さの草木が生い茂りジャングル状態で、これを切り開いていくことになった。2017年に取り組みを開始、重い草刈り機を背負い生い茂る草に立ち向かう、とても一度では刈り払えず、上中下と３段に刈払っていく。ほんの６ａだがチェンソーも携え雑木を切り倒しながら10日間かけてやっと生い茂るジャングルから地面が見えるようになった。当時64歳、荒仕事は未経験、もう十分に暑い６月の種子島、農作業は非常に応えた。

2019年、母が亡くなってから時間的に余裕をもって種子島に行くことができるようになり、他の畑の草刈りも行いながら整備した畑に順次果樹を植栽していった。

アボカド

果樹は、八朔をはじめポポー、オリーブ、ブルーベリー、キウイ、アボカド、柿、レモン、フィンガーライムなどの30種類以上を試しに植えた。アボガドやキウイなど数種類は枯れてしまったが今のところ八朔、レモンなどほとんどの果樹は残っている。

オリーブ

2020年からは野菜作りに取り組んだ。

大分から離島種子島へ、不定期遠距離【通勤農業】での放任栽培に耐えられる品目はあるか？

野菜畑

大根、ニンジンなどの一般野菜や唐辛子（６品種）、ペパーミント、バジルなど50品種以上、自家育苗にこだわり全て種蒔きから始めて苗をつくり定植した。この放任栽培に耐えられるのはどの品目？？

結果、無農薬放任栽培で野菜は九条ネギや小ネギなどの葉ネギだけしか残らなかった。

無農薬産物出荷

でもこんな【ずぼら農業】でも種子島滞在中には結構収穫物がある。折角の畑からの贈り物、一部は地元直販市場へ出荷するのだが、ご承知の通り品質は今一、見かけが劣る分言い訳にと無農薬栽培『トンボが舞う豊かな栽培環境』のシールを貼り「トンミー市場」へ出荷、わずか1,000円前後の売り上げを喜んでいる。

パッションフルーツ

この他の取り組みとしては、江戸元禄期に発明された千歯こきを使いライムギの脱穀作業、その粉を使ってのライムギパン作りやサトウキビ搾りかすを活用し乳酸菌でボカシ堆肥作り、コンパニオンプランツ、出荷できない貧弱な野菜の漬物作りや唐辛子醤油作りなど、今まで経験したことがない事を色々体験しながら、技術不安は何処へやら一人お楽しみ農業を堪能している。

ライ麦・千歯こき脱穀

漬物作り

こうした種子島での生活の様子はアメーバーブログの「さーちゃんの気ままな日記」（https://ameblo.jp/sadachan816/theme-10103541451.html）に掲載していますのでご覧ください。

園芸学科果樹園芸学研究室
昭和59年卒業生の集まり（第３回）

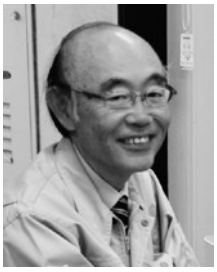
佐賀あらた会支部長　**新堂　高広**（園Ｓ59卒）

私たち昭和59年３月に果樹園芸教室を卒業した６名は還暦を迎えたことを機に同窓会を定期的に開催するようにしています。同窓会には冨永先生も毎回出席いただき、５年前は福岡で、３年前は鹿児島で、そして昨年は東京の日暮里で開催しました。なぜ東京なのかといいますと、当時自分たちの教授であった岩堀先生が千葉県に在住で、過去２回の同窓会にはご年齢のことや遠方であることも考慮してお声掛けしていなかったので、前回こちらから会いに行こうということになり開催しました。久しぶりにお会いした岩堀先生はとても85歳とは思えないほど大変お元気でした。また、自分たちが学生の頃も含めて今まで伺ったことのない先生のお若いころからのエピソードなど興味深いお話をたくさん聞くことができました。もちろん私たちも２年ぶりに会いますので、元気そうな顔を見ていると学生時代が鮮明に浮かび、昔の思い出話などに花を咲かせ大変盛り上がりました。また、全員が60歳を超えているので、この世代の飲み会であるあるの話題、「子供のこと」、「健康のこと」、「親のこと」なども共通としてそれぞれが大なり小なり抱えており、お互い気兼ねなく話せることも同窓会のいいところかもしれません。

今回は岩堀先生、冨永先生と同窓生４名の集まりで、後の２名（熊本さん、永井さん。両名とも鹿児島在住）は事情があり参加できず、とても残念でした。ですから、これまで１年おきに同窓会を開催していましたが、次回は冨永先生の幹事で（すみません）今年鹿児島で開催しようということに決まりました。さて、今年はどんな話題で盛り上がるのでしょうか？もしかしたら、「孫自慢」でも…、楽しみです。

私の禁煙顛末

鹿児島あらた会　**白山　竜次**（農Ｓ62卒）
（鹿児島県農業開発総合センター）



新型コロナが猛威を振るい始めた頃、喫煙者が感染すると真っ先に死ぬと騒がれた。それに恐れをなして禁煙を始めたが、色々と得がたい体験ができた。

いざタバコを止めると、ニコチンの離脱（禁断）症状がひどく、眠気とイライラがところかまわず襲ってきた。ニコチンレセプターがニコチンをほしがっているのがわかる。じっとしている時がいちばんきついが、ひたすら耐えるしかない。時間が経つのが遅く、希望のない生活が続く。一日の終わりに禁煙カレンダーに大きく○（マル）を付ける。３日経ち、10日経ち、６カ月経った頃、吸わなくても人生なんとかなりそうと感じるようになったので、カレンダーをやめた。禁煙成功。買い置きしていたタバコ１カートンを捨てた。

禁煙中に困ったのが仕事能率の低下だった。特に、論文執筆などの創作活動は困難を極めた。脳がパニクって創造的な思考がまったくできない。しかし、起床から離脱症状が出るまでに、いくらかのタイムラグがあることに気づいた。かろうじて頭が働くその時間に作業することで、何とか進めることができた。次に食欲の増進。禁煙による離脱症状の一種らしいが、何を食べても異常なほど美味しいのは予想以上だった。のり弁のあまりのうまさに感動した。この体験だけでも禁煙する価値があったが、おかげで体重が増加した。これはいけないと考えた末、自転車を買って乗ることにした。颯爽と風を感じる感覚はとても新鮮で、毎日の楽しみができた。これが功を奏して、体重は禁煙前をキープしている。

禁煙前も健康だった私は、やめたから健康になったという実感もなく、正直なところ禁煙が良かったのかどうかわからない。むしろ、「さて、一息入れるか」がなくなり、生活にメリハリがなくなった気がする。吸わない生活に自然と慣れた感じで、達成感もない。

今でも思い出すのは、論文採択のメールを受け取ったあと、大好きな音楽（ビルエバンス）を聴きながら飲む珈琲と煙草の最高タッグ。あの心地よい至高のひととき。禁煙から数年経過した今も、私のニコチンレセプターはまだ息をひそめて様子をうかがっているようだ。

ベトナム中部高原での有機農業の展開に向けた活動

鹿児島あらた会　**福山　誠**（林Ｓ63卒）
（国際航業株式会社・海外コンサルティング部）

有機農業を実践する篤農家での調査（右端が筆者）

タイグェン大学農林学部との協力協定締結（右から３人目が筆者）

現在従事中の業務について紹介させて頂きたい。鹿児島県の企業がベトナムでの有機農産物の生産から販売までのビジネス展開についての調査を実施されており、そのための側面支援を行っている。この調査は、国際協力機構（JICA）が実施する中小企業・SDGsビジネス支援事業という制度を活用したものである。当事者である企業は有限会社かごしま有機生産組合（以下、同組合）であるが、鹿児島市内で地球畑を運営する会社といった方が通りが良いかもしれない。同組合は、実際は自社農場も持ち、また日本でも有数の組合員数（約160農家）を有する事業体である。私は外部人材という形で、JICA事業やベトナムでの業務経験・知見を活かし、主にベトナム側の関連機関との調整や開発課題に関する助言・調査等を行っている。なお、本学の元農学部長の岩元泉名誉教授も外部人材（所属は鹿児島県有機農業協会）として参画し、主に有機認証制度や農業人材育成に係る調査を担当されている。また同様に、株式会社田上二葉種苗園（鹿児島市）も農業資材分野を担当されており、正にオール鹿児島での調査実施体制である。

急速な経済発展が続くベトナムでは、市民の有機農産物（特に野菜類）や安全野菜に対する関心は非常に高いものの、有機農業の歴史は浅く、栽培技術にも改善の余地が多く残され、また認証制度も適正に機能しているとは言い難いため、有機農産物に関するビジネスも発展途上である。したがって、同組合が有する有機農産物の生産、加工、流通、販売といった一貫体制を構築する経験やノウハウをベトナムに持ち込み、効果的に展開することができれば、同組合にとっては大きなビジネスチャンスとなる。ただし、JICAの事業であるので、ベトナムの関連行政機関の有機農業普及や人材育成などに関する能力向上やパートナーとなる農家の所得・生計向上といった課題にも同時に取り組むことも期待されている。

昨年３月に開始された本調査では、これまでにすでに４回の現地調査が中部高原にあるダクラク省を中心に、ハノイ市やホーチミン市でも行われ、農家での聞き取り調査や、行政機関や大学・研究所等の多くの関連機関との意見交換、市場やスーパーマーケットでの市場調査などを通じて情報・データの収集等を行ってきた。また、11月には本邦研修ということで、ベトナム側関係者６名を鹿児島に招聘して、組合員の農家さん方との交流、直販店（地球畑）やレストラン（草原をわたる船）での買物・食事体験、同組合の農産物加工場見学、オーガニックフェスタ（同組合が実行委員）視察など盛り沢山の活動を実施し、同組合の活動に対する理解を促進すると共に、良好な関係構築も進めてきた。本年２月に最終となる第５回目の現地調査を経て、本調査は終了する見込みである。実際のビジネス展開にあたっては多くの乗り越えるべき課題があるものの、近い将来、本調査の成果が何らかの形で所期の目的を達成することにつながり、更には鹿児島の発展の一助となることを祈念している。そのためには、私も微力ながら、可能な限りの尽力をさせて頂く所存である。

学　生　便　り（卒業・修了にあたって）

あっという間の４年間、これからどう生きていくか

農業生産科学科　応用植物科学コース
植物栽培・機能学研究室　学部４年
大久保　成晃

農学を修めたいと決意し、28歳で鹿児島大学に入学した。ジェネレーションギャップを感じつつも、何とか講義や実習をやりきった１年次。共通教育では、特にグループワークに力を入れ、限られた時間でメンバーの意見をどれだけ拾い上げられるかに徹した。努力の甲斐あって、２年次には共通教育センター長賞を受賞し、これがその後の学びの後押しとなった。新型コロナ感染拡大期は、自分の思い描いた大学生活とはまるで違うものであったが、自分と向き合うよい機会になったと今では思う。コロナ禍が少し落ち着いた３年次以降、座学だけでなく、講義内で興味を持った内容に関してその現場に足を運んだ。その中でも、徳之島でのインターンシップでは、島内の基幹作物であるサトウキビの生産が島の雇用や地域経済を支えているという点を肌で感じることができた。また、オクラの栽培管理や製茶、機能性表示食品など、卒論に係る知識習得のため、指宿市と知覧の農家の方々や他大学の教授等に自らアポイントを取り、内容の濃い話を聞かせていただいた。農業を生業とする人々や専門家の知識の奥深さに何度も感動した。

来年度からは職業生活がリスタートし、私は開発職に就く。世にない新しい製品を生み出すには、圧倒的な知識と潜在的ニーズの収集、そしてチームとの協働が欠かせない。大学で身に付けた行動力と探究心を思う存分、発揮していきたい。

土壌に種子を蒔き、そして根を四方八方に張り巡らせることによって、植物は大きく成長する。しかし、時期を迎えても地上に表れない個体だって存在する。思い返せば何をやってもうまくいかなかった20代、本当につらかった。それでも人生という土壌に腐らず水を与え続けた結果、やっと芽を出した。これが今の人生観、今後は立派な花を咲かせるために努力を重ねていきたい。

この４年間を振り返って

農業生産科学科　畜産科学コース
栄養生化学・飼料化学研究室　学部４年
廣川　翔一

僕の大学生活の半分はコロナの時代でした。授業のすべてが画面越しで、体育の授業ですら画面に映る先生方を見ているだけでした。サークルの活動も制限されていて、外に出るのはバイトと家の往復くらいでした。同じ学部の人と話す機会もなく、まともに顔を合わせたのは入来牧場での実習が初めてでした。不安だった気持ちとは裏腹に、お互い友達を作りたいと思っていたのかすぐに打ち解け、夜は先生に怒られるほど盛り上がりました。入来牧場で行った牛の行動観察は１分毎に牛が何をしているのか記録するというもので、あまりにも眠すぎて「休息」と記録しながら自分が休息していました。今では友人とその話で盛り上がるほど思い出に残っています。３年生では研究室に配属され、かけがえのない仲間たちと出会うことができました。男子は僕だけでしたが、同級生はみんな優しく、学外にもご飯に行ったり、遊びに行ったりと楽しく過ごすことができました。先輩方も優しく、卒業式の日にはみんなで盛大に送り出しました。僕たちの研究室では実験が多く、夜遅くまで続くこともあり、その時にはみんなでお肉やお菓子を持ち寄り、交流を深めたこともありました。その際には、先生方も席に加わり、さまざまなお話をしていただきました。コロナが収まった後には、忘年会や送別会などもあり、さらにみんなとの思い出を作ることができました。

高校生の頃に思い描いていた理想の大学生活とは違ったスタートとなりましたが、大切な仲間と思い出を得ることができました。大学での一番の宝物は、学生生活のなかで出来た友人達だと思っています。友人達の多くは社会人となり、大学院に進学するのは僕だけですが、これからも同級生たちとの縁を大切に研究に励もうと思います。

４年間の大学生活を振り返って

食料生命科学科　焼酎発酵・微生物科学コース
応用分子微生物学研究室　学部４年
林　侑紀

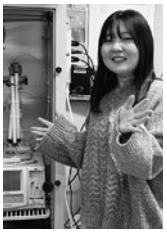
地元大分から鹿児島へ来て早４年が経ちました。新生活に期待と不安を抱いていた日々が、つい昨日のことのように思われます。長いようで短かった大学生活で、私がもっとも学びを得られたことは人との関わり方でした。

私たちの大学生活はコロナの感染拡大とともに始まりました。授業はほとんどがオンラインで行われ、大学へ行ったのは数える程度です。人間関係が希薄になっていく危機感を抱いた私はサークルへ入ることを決めました。未知の環境に飛び込んでいくのは勇気のいることでしたが、思い切ってサークル見学へ行って良かったです。４年間のサークル活動を通して、友人に恵まれ、鹿児島の色んな所へ行くことができました。大学生活において大切な思い出です。

サークルへ参加したことをきっかけに、私は自ら行動することの重要さを実感しました。「夢見ていた大学生活をできるかぎり叶えていこう。」そう思い、今度は飲食店のアルバイトを始めました。どんな人とでも話せるコミュニケーション能力が欲しかったからです。様々な“大人”と接することで、社会性を大きく育むことができたと思います。次に勤めた職場では塾講師をしていましたが、飲食店とはまた違う雰囲気があり大変勉強になりました。

大学生活の前半はオンライン授業とサークルとバイトでしたが、後半のほとんどは研究室で過ごしていました。私が学びたかった微生物を研究でき、何より良い先生、友人、先輩、後輩に出会うことができました。毎日が新しい発見の連続で、楽しく、充実した日々でした。

この４年間は、これまでの人生にないほど、たくさんの人と関わった期間でした。振り返ってみると、楽しかったことも辛かったこともすべて自分の成長に繋がっています。かけがえのない大学生活を糧に、社会へ出ても精一杯頑張っていきたいです。



人とのつながり

食料生命科学科　食品機能科学コース
応用糖質化学研究室　学部４年
吉武　歩衣

私の大学生活は、新型コロナウイルス感染症が日本中で拡大している真っ只中に始まりました。初めてのひとり暮らしに加え、入学式やオリエンテーションへの参加ができず、友だちもいない状況での生活は、思い描いていたキラキラした大学生活とはかけ離れていたものでした。毎日パソコンと向き合いオンライン授業を受け、家から一歩も出ない日も多々ありましたが、そんな不安で退屈な日々を変えてくれたのが人とのつながりでした。

出身地が同じという共通点から意気投合した友だちや、たまたま行ったサークル体験でアルバイト先を紹介してくれた先輩、姉の紹介で知り合った桜島の有機栽培農家さんなど、出会い方は様々でした。大学で初めてできた友だちは、お互いに授業の履修方法など分からないことを助け合うなど、大学生活の不安を取り除いてくれた存在でした。また、友だちを通してさらに新しく友だちができ、大学が楽しいと思える場になりました。先輩の紹介で入ったアルバイトでは尊敬できる大人の方々に出会い、社会人になる準備の一つとして様々な経験をさせていただきました。そして、桜島の農家さんとの出会いは、鹿児島の魅力を知り、自分が農学に興味があることの再発見ができたきっかけとなりました。

コロナ禍により最初の２年は空白の２年間だったと思っていた時期もありましたが、思い返せば私の大学生活は人に恵まれたキラキラした日々でした。そして、コロナ禍を経験したからこそ人とのつながりは貴重なもので何にも変え難い財産であることに気づくことができました。私は更なる成長として大学院に進学しますが、これまでの４年間での出会いを大切にすると同時に、これから出会っていく人とのつながりも大切にしていきたいと強く思いました。

大学生活を通して学んだこと

農業環境科学科　森林科学コース
砂防森林水文学研究室　学部４年
米村　葉奈

４年間の大学生活は小中高のどの学校生活よりもあっと言う間でした。コロナの影響で入学式もなく、１年生と２年生の途中まではほぼ大学へ通うことはなく、オンライン授業の日々でした。楽しい大学生活を待ち望んでいたのですが慣れないオンライン授業で、新たな交友関係も広げられず寂しい気持ちがあったことが思い出されます。しかし、大学での授業やサークル、アルバイト、就職活動を通して様々な学びがあり、入学したての頃と比べ、大きく成長できたと思っています。

大学の授業では、学科の勉強をすることはもちろんですが、自由に選択できる共通教育の授業で自分なりに挑戦することにしました。私は元々、消極的な性格で自らの意見を発言することが苦手でしたが社会人に必要な力を高められる集中講義に参加しました。その授業では、自分の意見を発表したり、グループディスカッションがあったり、今までは避けてきた授業内容でしたが成長したいという思いがあり、少しずつではありますがこれまでの自分を変えられた気がします。また、農学部以外の学部の人と交流できたことも楽しかったです。何かに向かって挑戦し、努力することは、アルバイトや就職活動でも役に立ったと思っています。塾講師のアルバイトでは、分かりやすく生徒に伝え、問題を解けるように教えることは難しく、自分自身も学び、努力し続ける日々でした。就職活動では、面接練習をほぼ毎日行い、本番では堂々と自分の伝えたいことを伝えることが出来ました。

入学当時の自分では考えられないぐらい様々なことに努力した４年間だったなと思います。専門の授業では野外実習が多くこれから先も経験できないことを体験でき、様々な人々との出会いもあり充実した大学生活でした。

日常生活で学んだことを

農林水産学研究科　環境フィールド科学専攻
環境システム科学コース　利水工学研究室　修士１年
大胡　燈

地元京都を離れて５年が経ちました。農学部で４年間学び、現在は修士課程で研究に励んでいます。同時に就職活動を行っていますが、企業の方とお話をするときに、過去の自分を振り返ることが多くなったと思います。

私が高校生のころに亡くなった農家の祖母の影響で、農学部に進学することを決意し、進学後、初めて親元を離れての生活が始まりました。はじめは、鹿児島に来て「食」に戸惑いました。関西人だからなんでも薄味を好むというわけではありませんが、鹿児島の食べ物は味付けが濃くご飯や水で薄めて食べていました。私が大学１年生のとき、先輩からの紹介で、寿司屋でアルバイトを始めました。地元密着型のお店で、聞いたことのない鹿児島弁での会話に戸惑い、話が全く理解できず愛想笑いが上達したと感じました。

次に困ったことは「お金」です。とにかく生活をするにはお金がかかると感じました。大学生活では、食費や交際費など、さまざまな出費があります。私は、学部時の４年間は学生寮で生活をしていたため、家賃や光熱費等は抑えられていましたが、それでも生活するというのはお金のかかることだと感じました。この経験からお金の使い方を考えるようになりました。自分の中で取捨選択し、優先順位をつけてお金を使うようになりました。

今回、就職活動を通じて、学業以外での日常生活で学んだこと・大切にしていたことを再認識できました。今後も修士課程での研究活動は続きますが、私は研究活動の基礎となるのは、生活習慣と考えています。目標達成のために、常に前もって計画し地道な努力の積み重ねが成果を生むことを心掛けています。今後は、自分の生活スタイルを理解し、心と身体の健康を保ちながら、研究と睡眠・遊び・酒に励み私にとって成長できたと言える学生生活を送りたいです。

私の留学経験

農林水産学研究科　農林資源科学専攻
応用植物科学コース　果樹園芸学研究室　修士２年
平井　絢

修士２年の４月から半年間、私はタイへパッションフルーツの研究留学をしました。タイに興味を持ったきっかけは、大学１年の夏休みに訪れたタイで多くの果物に出会ったことでした。いつかタイで果物の研究をしたいと考えた私は、果樹園芸学研究室に所属し、タイへ留学する準備を進めました。飛び級して大学院に進み、修士１年の時は唐湊果樹園でパッションフルーツの栽培実験を行い、先生のご指導のもと、パッションフルーツや実験方法について知識を深めました。その後修士２年の４月、タイに飛び立ちました。タイの大学では土壌学研究室にお世話になり、土壌学を学びながら、分析のサポートをしていただきました。また、栽培施設で施設職員の方々のサポートを受けながら、パッションフルーツの栽培を行いました。研究では、共に考え、アドバイスをいただき、タイの“大丈夫！なんとかなるさ！”の精神に励まされました。また、沢山の方々に研究だけでなく、日常生活も支えていただきました。タイでは英語を話せる人が少なく、意思疎通に困ることが多々ありましたが、そんな時、身振り手振りや絵を利用してタイ語を教えてもらい、タイ語の交流も楽しみました。交通手段が限られた中、休日や空いた時間に沢山の場所にも連れ出していただきました。タイは自然豊かな場所が多く、日本に無い植物や果物を多く目にすることができました。それらを観察したり食したりしたことは、私にとって刺激的な体験となりました。私のタイ留学での経験は、研究と日常生活の両方で沢山の学びがあり、自分の視野を広げる素敵な機会となりました。このかけがえのない経験ができたのは、準備から留学、さらに留学終了後も多くの人の支えがあったからです。すべての人に感謝して、今後もこの経験を胸に、精進していきたいです。

恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

【定年退職】　遠城　道雄　令和６年３月31日
（農学部附属農場　農場主事・教授）
地頭薗　隆　令和６年３月31日
（農林環境科学科　地域環境システム学コース　砂防・森林水文学分野　教授）
宮本　篤　令和６年３月31日
（共同獣医学部獣医学科　基礎獣医学講座　薬理学分野　教授）

【昇　　任】　坂巻　祥孝　令和５年４月１日
（農業生産科学科　応用植物科学コース　害虫学分野　教授）
香西　直子　令和６年１月１日
（農業生産科学科　応用植物科学コース　熱帯果樹園芸学分野　准教授）
坂尾　こず枝　令和６年３月１日
（食料生命科学科　食品機能科学コース　食品分子機能学分野　准教授）

【新　　任】　安田　悠子　令和５年４月１日（農林環境科学科　森林科学コース　育林学分野　助教）
西澤　優　令和５年12月１日（農学部附属農場　助教）
高橋　さやか　令和６年３月１日（農林環境科学科　森林科学コース　木質資源利用学分野　助教）

【受　　賞】（判明分のみ）　松本　秀一（農　S44卒）　2023.11.30　第44回農協人文化賞　特別賞
下小野田　寛（農　S58卒）　2023.11.30　第44回農協人文化賞　一般文化部門
若松　謙一（農　H元卒）　2023.12.8　農林水産術会議会長賞　2023年度農業技術功労者表彰
浦川　大吾、中村　瑞樹、赤木　功、侯　德興、坂尾　こず枝
（食料生命科学科）2023.8.25　第70回食品科学工学会記念大会　若手の会ポスター賞
岩永　菜央、藤田　清貴、北原　兼文
（食料生命科学科）2023.9.14　日本応用糖質科学会2023年度大会 ポスター賞
二神　泰基　（食料生命科学科）　2023.10.4　日本醸造学会奨励賞
大島　一郎　（農業生産科学科）　2023.10.21　日本暖地畜産学会学会賞
小田　莉央、侯　德興、坂尾　こず枝
（食料生命科学科）　2023.11.18　第28回日本フードファクター学会学術集会
JSoFF2023 Young Investigator Award
榊原　夢未、南　雄二、加治屋　勝子
（食料生命科学科）　2023.11.18　第28回日本フードファクター学会学術集会
JSoFF2023 Young Investigator Award
先間　晴紀、髙峯　和則、吉﨑　由美子、玉置　尚德、二神　泰基
（食料生命科学科）2023.11.25　The Branch Meeting of the Japan Society for Bioscience,otechnology,and Agrochemistry、JSBBA West 6th Student Forum
平松　健太郎、奥津　果優、吉﨑　由美子、髙峯　和則、玉置　尚德、二神　泰基
（食料生命科学科）2023.11.25　日本農芸化学会西日本支部第6回学生フォーラム優秀発表賞
坂上　潤一　（農業生産科学科）　2023.12.4　日本熱帯農業学会学会賞

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
濱　名　克　己	旧賛助	R.5.3.6	大阪府東大阪市上石切町 2-34-21	夫人　まちこ
河　邊　愛　宏	A.S.23	R.5.7.23	姶良市西餅田 1777-30	令嬢
肥　田　　望	A.S.24	R.5.11.16	鹿児島市上荒田町 34-16	
矢　野　欣　一	A.S.26	R.5.2.	兵庫県神戸市北区有野台 1-15-12	子息
有　園　　勉	A.S.32	R.5.3.30	鹿児島県霧島市隼人町東郷 457	夫人　カツ子
俵　　幸　子	A.S.36	R.5.4.4	福岡県北九州市小倉北区弁天町 11-4	夫君
川久保　　清	A.S.46			
田　中　重　守	A 別 S.24	R.4.12.13	千葉県松戸市小金原 7-28-15	令嬢　理恵
小　牧　昌　文	F.S.26	R.5.1.16	鹿児島市西坂元町 71-5	夫人
迫　田　逸　己	F.S.29	R.5.6.10	滋賀県守山市岡町 25-21	
後　迫　　巌	F.S.32	R.5.1.14	東京都世田谷区上祖師谷 1-7-13	子息　武
落　合　寅　夫	F.S.35	R.5.7.14	宮崎市清武町木原 235-1	子息
飯　田　知　彦	F.S.36	R.4.9.12	兵庫県明石市太寺 1-16-19	夫人
今　村　民　男	S.S.25	R.4.11.	鹿児島市鴨池新町 26-1 シーサイドマンション 1202	子息　光一
本　田　　誠	S.S.35	R.4.10.18	鹿児島県南さつま市加世田益山 8301-3	夫人
井　尻　敏　文	C.S.22	R.5.8.12	山口県山口市大内矢田北 3-12-17	子息
榎　田　　明	C.S.25	R.5.9.24	鹿児島市小山田町 91-1	令嬢
福　永　隆　生	C.S.30	R.5.12.19	埼玉県ふじみ野市清見 2-2-17	
雑　賀　文　知	C.S.31	R.4.11.30	福岡県古賀市千鳥 6-24-11	子息
福　岡　逸　朗	V.S.29	R.3.3.28	佐賀市大和町尼寺 2659-10	
吉　山　文　蔵	V.S.29	R.5.2.16	佐賀市高木瀬東 3-2-7	夫人
白　川　久　夫	V.S.35	R.5.2.2	東京都東久留米市前沢 3-6-76	
谷　口　浩　二	V.S.43	R.5.2.4	鹿児島市鴨池新町 25-14-101	
髙　橋　　亘	V.S.46	R.5.3.27	鹿児島市星ケ峯 4-39-13	夫人
小　玉　大　策	G.S.39	R.5.5.22	鹿児島県いちき串木野市袴田 744-3	夫人　洋子

本　部　便　り

Ⅰ．はじめに

令和２年２月から始まった「新型コロナウイルスパンデミック」はようやく落ち着きました。令和５年５月８日の「新型コロナウイルス」の５類感染症指定に伴い、様々な行事や社会における人々の活動が「４年ぶり」という修飾語を付けて再開されました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会でも、令和３年、４年の総会は「新型コロナウイルス」対策のために300人収容の農・獣医共通棟101号教室で、それぞれの年度の評議員会を兼ねて開催し、例年総会後に開催してきた「懇親会」は中止しましたが、「令和５年度評議員会」は対面で開催するとともに「令和５年度総会」後の「懇親会」も４年ぶりに開催できました。また、支部総会・懇親会を開催する支部や職域も出てきました。

「あらた同窓会報」（春季号、秋季号）はコロナ期間も学内幹事の協力で無事に発行できました。また、「支部便り」の減少に伴い、令和３年春季号から設けた「会員からの寄稿（エッセーなど）の欄は好評です。このエッセー欄は今後も継続して行きたいと思います。

今後は「あらた同窓会」の活動がさらに発展し、コロナ禍以前並みにあるいはそれ以上に活発になること、卒業生および在学生にとって実り大きいものになることを期待しています。

Ⅱ．事業及び会計に関する報告

（会計年度：令和４年10月１日～令和５年９月30日）

１.令和５年度総会（令和５年11月23日開催）

○開催日：令和５年11月23日㈭15：00～17：00

○場所：鹿児島大学　農・獣医共通棟101号教室（300人収容）

令和５年度総会は、300人収容の「農・獣医共通棟101号教室」で15：00～17：00に開催しました。出席者は52名でした。なお、例年総会に先立って行っていた「講演会」は新型コロナウイルスパンデミック等による準備不足により中止にしました。

総会においては、藤田晋輔会長（林Ｓ37卒）および寺岡行雄農学部長（顧問・賛助）の挨拶に引き続き、議長として岩井久氏（農Ｓ55卒）が選出され、岩井議長のもとで、下記の協議事項について事務局から資料にもとづき趣旨説明・提案を行い、審議の結果全て承認されました。

⑴　令和４年度事業報告（案）について
⑵　令和４年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）および功労者表彰特別会計収支決算（案）について
⑶　令和４年度会計監査報告について
⑷　令和５年度事業計画（案）について
⑸　令和５年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）および功労者表彰特別会計収支予算（案）について
⑹　会則改正について
⑺　役員交代・改選（案）について
⑻　その他

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」（稲盛記念館）に移動し、17：30～19：30まで4年ぶりに懇親会を開催しました。総会及び懇親会の様子については本号７ページに詳細に記載してあります。

２.令和５年度評議員会

令和５年度評議員会は令和５年10月26日17時30から「あらた記念館」において出席者25名で対面で実施いたしました。実に４年ぶりの対面実施でした。藤田晋輔会長および寺岡行雄農学部長の挨拶の後、会長が議長を努め、「評議員会」の目的（会則第14条２）である総会に付議するための下段の議題について協議をいたしました。協議の結果、（2）のうち令和５年度の一般会計収支予算（案）と（4）会則改正については一部修正して総会に付議する。（3）新入生入会金については「継続審議」となりました（本件については29ページの「特別報告」の項で詳細に述べます）。

⑴　令和４年度事業報告（案）、令和４年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）、功労者表彰特別会計収支決算（案）並びに会計監査報告について
⑵　令和５年度事業計画（案）、令和５年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）、功労者表彰特別会計収支予算（案）について
⑶　新入生入会金について
⑷　会則改正について
⑸　役員交代・改選（案）について
⑹　その他

３.常任幹事会および幹事会（学内幹事会）

令和４年度の常任幹事会及び幹事会はリモート会議１回、対面会議１回の２回開催しました。第１回幹事会（令和５年１月４日開催、リモート方式）では、「あらた同窓会報令和５年春季号（令和５年３月23日発行・一般会員向け会報）の編集方針」、「令和５年卒業および修了生名簿作成」、「入会金未納者への対応」、「令和４年度卒業祝賀茶話会」、「令和５年度新入生オリエンテーション」、「令和５年学生向け講演会」、「令和５年度あらた同窓会総会および懇親会」、「あらた同窓会会員名簿作成関係（令和５年６月発行）」等について協議いたしました。

第２回幹事会（令和５年８月29日開催、対面方式）では、「会則の改正（新入生の入会金の値上げを含む）」、「学生向け講演会の開催」、「あらた同窓会報令和５年秋季号（11月23日発行・学生向け会報）の編集方針」、「あらた同窓会評議員会・総会」について協議しました。

これらの協議で、特に「学生向け講演会」については①令和５年度中の開催は準備不足のためにできない、②開催時期は従来の夏休み前にこだわらないで良いのでは、③講師を学生に近い年齢の卒業生にお願いするのが良い、などの意見が出されました。

また、「会則改正」のうち第16条の３「第16条３　学生会員は、入会金及び在学中の年会費として、入学時に10,000円を納付する」を事務局から20,000円に増額することを評議員会および総会に提案したいということを協議して貰いました。増額の理由は、令和５年入学手続きのWeb化に伴い納入率が大きく低下しており、あらた同窓会の運営に支障が出る。また、農学部卒業祝賀会のあらた同窓会負担を増額する必要がある。令和６年４月の農学部改組により入学定員が30名減少し、175名になる。現在の入学時納入金10,000円は全学部同窓会の中で最も低い。等です。幹事会で出された意見は以下のとおりです（順不同）。①入学前のオリエンテーションでの同窓会の説明（意義・メリットなど）をもっと丁寧にするべきである、②予算は卒業祝賀会に使用するだけでなく、卒業生や在学生に対してアワード（award）等（就職活動などに使える）を新設し同窓会のメリットを目に見えるようにする必要がある、③学生向け講演会など学生に対するサポート活動を充実していく必要がある、④未納者数がこれほど多いと卒業時に納入をお願いすることが学内幹事にとって大変な業務になる（大学院修了生もいるので非常に多くなる）、⑤夏休み（９月末まで）に再度督促状を発送して納入者数を増やす努力をして欲しい、⑥入会金増額は止むを得ないのではないか、などが出されました。

協議の結果、「入学時納入金を20,000円に増額する」ことを評議員会に提案することは認められました。

４.会計監査

令和４年度の会計監査は、令和５年10月16日（月）に黒木譲二、菊川明及び下川悦郎の３監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出されました。

５.会報の発行と送付数

「鹿児島大学農学部あらた同窓会報」は、鹿児島大学の卒業式の日（通常は３月25日）に春季号報（全会員向け）を、11月23日に秋季号（主として学生会員向け）を発行しています。

令和５年春季号は令和５年３月23日に発行し、「直近５年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「賛助会員」及び「学生会員」並びに平

成29年度評議員会および総会で承認された「あらた同窓会活動の活性化を図るために、可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けし、年会費納入向上に資する」という趣旨で卒業後５（H.30卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.43卒）年を経過した５年毎の連絡先が判明している人」の総計3,209人に送付・頒布しました。送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封しました。なお、会費振込用紙を同封しない「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」および「旧賛助会員」等には、平成28年度以降継続してお願いしている「同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金（寄付）」を募集しました。

令和５年秋季号は令和５年11月23日に発行し、学生会員、教員に加えて令和５年度本部総会出席者、各地域支部総会等出席者に配布しました。

６.あらた同窓会経理について

「あらた同窓会」の経理は正会員からの「年会費（2,000円）」と学生会員の「入学時納入金（入会金2,000円＋年会費2,000円×４年＝10,000円）」で成り立っています。

平成29年度から大幅な経費節減に取り組むとともに、会費納入を郵便局に加えてコンビニでもできるようにしたこと、会費免除者を中心に多数の会員から賛助金をいただいたことや令和２年２月から「新型コロナウイルス感染症」拡大により、様々な行事が中止され支出が減少し、令和３年度および令和４年度に引き続いて令和５年度予算への繰越金が増加し、令和２～４年度の「あらた同窓会経理は改善しました。

しかし、正会員からの「年会費（2,000円）」の納入者数はここ数年、「鹿児島支部」などの一部の支部からの「集団納入者（納入額の20％は支部交付金として支部に還元）」に偏り、総納入人数は1,000人前後で漸減・推移しています。今後は正会員からの「年会費」の納入率向上に向けた活動を強化する必要があります。

昨年（令和５年）５月８日以降、社会生活が正常化されるようになり、各地域支部総会なども再開されるなど「あらた同窓会」の活動が従前に戻ってきていることから地域支部総会への派遣旅費も増加しています。また、昨今の物価上昇などもあり経理的には厳しくなることに拍車がかかるものと危惧され、今後は単年度単位でみると収入に比べて支出が増加し支出超過となり、通常活動に支障が出ることが予想されます。

「あらた同窓会」事務局としても、合理的な経理運営を進めて対処していくつもりですが、前述したように今後は正会員からの「年会費」の納入率向上に向けた活動を強化する必要があります。

学生会員の「入学時納入金増額」についても、令和５年８月29日の学内幹事会で検討し、令和５年10月26日開催の「評議員会」で提案・協議しましたが、種々様々な意見が出され、今後、「あらた同窓会」顧問の農学部長や「学内幹事会」、「評議員会」および「総会」で協議・検討を続けていくことになりました。本件については後段の報告事項といたします。

７.名簿の発行

「あらた同窓会会員名簿」は株式会社サラトに委託し、令和５年６月に発行しました。

「卒業生・修了生名簿」は学内幹事の多大な協力により、令和５年３月23日に500部印刷・発行し、卒業生、修了生、教職員に配布いたしました。

８.学生向け講演会

例年実施している本会と農学部共催の「学生向け講演会」については、先に記載したように「学内幹事会」で協議した結果、「新型コロナウイルスによる鹿児島大学の遠隔授業の実施」方針等により学生の授業が対面とオンライン（遠隔授業）のハイブリッド型に変更されていること、従来開催していた９月30日までには準備および周知期間が短いことから令和４年度中の実施は見送ることとしました。今後は学内幹事会の項でも記載したように、在学生に近い年齢の卒業生を講師にお願いするなど検討することにします。

９.地域支部との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしていますが、令和２年から令和４年まで支部総会は軒並み中止になり、地域支部との交流はできませんでした。

その後、令和５年５月８日以降、支部総会が徐々に開催されるようになってきており、令和５年５月28日には「近畿・兵庫あらた会令和５年総会・懇親会」が、令和５年11月24日には「熊本あらた会総会・懇親会」が、令和５年12月９日には「広島あらた会総会・懇親会」が開催され、いずれも寺岡農学部長に出席を賜りました。それら総会・懇親会の模様については、速報を「あらた同窓会ＨＰ」（https://aratadousokai.org/）にアップしています。また、詳細については本号（令和６年「あらた同窓会報令和６年春季号」に掲載されています。

10.会則改正について

大学院農学研究科の院生が全員修了したことにより、以下の会則を改正しました。

第５条第１項

学生会員

（旧・現在）　農学部及び大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

（新・修正）　農学部及び大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

附則

（追加）本会則は、令和５年11月23日より改訂施行する。

11.『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて

鹿児島大学同窓会連合会の活動と連携して取り組んでいきます。

12.鹿児島大学同窓会連合会

令和２年以降の「新型コロナウイルス」感染拡大により令和２年度、令和３年度に引き続き令和４年度入学式も大幅に縮小されたために、令和４年度総会は７月30日に鹿児島大学共通教育棟111号教室において対面で開催され、懇親会は中止になりました。また、同窓会連合会役員会や幹事会も「対面開催」は激減し、「書面審議」や「メール審議」主体になりました。

令和５年度に入り「新型コロナウイルス感染症」による行動自粛の位置付け変更に伴い、「新型コロナウイルス感染症」対策を十分に行ったうえで令和５年度鹿児島大学入学式は４月７日に川商ホール（市民文化ホール）で開催され、令和５年度同窓会連合会総会および懇親会は４月８日（土）に「マリンパレス鹿児島」で行われました。特に、懇親会は新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小しての開催となり、全体で約100名が出席しました。「あらた同窓会」からも14名が出席しました。

また、同窓会連合会が年２回発行している「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会」としても毎号寄稿しており、印刷物は本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布してきました。

13.その他

特にありません。

Ⅲ．特別報告

1.新入生入会金について

学生会員の「入学時納入金」については、「学生会員」制度を導入した平成13年から納入率が73％～86％（平均80％）で推移してきました。

しかしながら、令和５年度入学生から鹿児島大学がWebによる入学手続きに移行したことから、「あらた同窓会」も合格通知書への「入会金のお願い」文書の郵送ができなくなり、鹿児島大学の「入学手続システム」の農学部合格者向けページにA4　１ページの『鹿児島大学農学部あらた同窓会への加入について（ご案内）』を掲載して「郵便振込決済」あるいは「クレジット決済」をお願いしました。また、入学式前（４月４日）の「新入生オリエンテーション」時に「鹿児島大学農学部あらた同窓会入会金の納付ついて（お願い）」と「郵便振込用紙」を配布し、「あらた同窓会」の活動等を説明し加入をお願いした結果、５月末日までに入学者218名中121名（郵便振込+クレジット決済：総入学者の56％）が納入しました。これは、令和４年度の４月末日納入率（78.6％）に比べて大幅に低くなっています。

その後、未納者のうち個人情報開示承諾者（身元保証人＋新入生）宛に、あらた同窓会長および（顧問）農学部長名の「鹿児島大学農学部あらた同窓会入会金の納付ついて（お願い）」を7月および９月の2回送付しました。その結果、9月30日までに162名（入学者218名の74％）が納入してくれました。「農学部あらた同窓会」では入学年の未納者に対して学内幹事の先生方を通じて卒業時に再請求をお願いしていますが、入学年度当初の未納者が多いと学内幹事の先生方にとって大きな負担をお願いすることになります。さらに、令和６年４月には農学部改組により入学定員が30名減少し175名になり、学生会員からの「入学時納入金」の総額は大幅に減少することが危惧されます。

そこで、学生会員の「入学時納入金」を（入会金12,000円、年会費2,000円×4＝8,000円）の20,000円に増額することを「学内幹事会」において協議したところ、「学生会員に対する同窓会活動を強化するべきである」との意見（例えば、「農学部卒業祝賀会」支援の大幅な増加の他、「あらた同窓会賞（あるいは農学部長賞）（いずれも仮称）」および「卒業記念品」の新設、「学生会員に対する啓蒙活動の強化」など「学生会員」に対するサポートの強化が必要である）との意見が出されたものの評議員会への提案は認められました。

その結果をもとに、「入学時納入金の増額」について令和５年10月26日開催の「評議員会」で提案・協議しましたが、種々様々な意見が出され、今後、「あらた同窓会」顧問の農学部長や「学内幹事会」、「評議員会」および「総会」で協議・検討続けていくことになりました。

「評議員会」で出された意見の主なものは以下の通りです。

1.「コロナ禍」で活動ができなくて繰越金が増えている現状で「入学時納入金」の増額はしにくい。
2. 支出の圧縮を図る。
3. 一般会員に「経理の窮状」を（郵便等で）訴えて、「一般会費」の収入増を図る。
4.「あらた同窓会報春季号」の発行・郵送部数を減らし、「あらた同窓会」ＨＰのURL（ＱＲコード）をハガキで知らせて「会報」等はＨＰで読んでもらう。
5.80 歳以上の会員からも「年会費」を徴収する。
6.「学生会員」に対しては同窓会に入っているメリットを宣伝する。（例）「あらた同窓会賞あるいは農学部賞（仮称）」のような表彰制度を作り「賞状＋記念品あるいは奨学金」を授与する。「卒業時に各人に記念品を渡す」。
7. 幹事会に学生会員も入れる。学生会員にも「総会案内」を送り「出席」可能にする。
8. 農学部卒業祝賀会は「あらた同窓会」としてこれまで同様十分な支援を継続し、そのことを保護者にも十分理解して貰えるように努力する。
9.「入学時納入金」の増額をすると納入者が減少し、卒業時の納入も厳しくなる可能性がある。

以上の意見等を踏まえ、「あらた同窓会」としては「会長・副会長」、「学内幹事会」、「評議員会」および「総会」で協議・検討して行きたいと思います。

賛助金および寄付者ご芳名（令和５年３月14日～令和５年12月22日）

学科卒年	氏　名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	佐藤宗治
旧賛助	竹内郁雄
旧賛助	田代正一
AS22	中村秀徹
AS22	春松　高
AS26	上ノ薗　誠
AS26	八幡正則
AS29	井上晃一
AS31	福山見孝
AS31	村井敏夫
AS32	赤池玉盛
AS32	築島敬一
AS32	中園和年
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS33	有村憲一
AS33	内　國弘
AS34	江崎一弘
AS34	神吉善茂
AS34	吉岡庭二郎
AS36	原田　滓
AS36	室園正敏
AS37	青木弘光
AS37	浅田謙介
AS37	清水博之
AS38	川村史郎
AS38	中田昭一郎
AS38	三好祐二
AS39	山本公明
AS39	横山和正
AS40	日野耕一郎
AS40	村上忠勝
AS40	山下克己
AS40	吉村大三郎
AS41	岩猿敬文
AS42	泊　東洋和
AS42	富岡忠勝
AS47	池端裕昭
AS52	永井定明
AS52	平井正明
AS53	三木洋二
AS53	宮本和久
AS56	三井寿一
AS57	齋藤節雄
FS22	木村義章
FS24	小幡辰雄
FS24	紀野武夫
FS26	那須袈春
FS26	安武次郎太
FS29	中村金即
FS30	丸尾睦夫
FS31	岩崎健生

学科卒年	氏　名
FS31	原田俊一
FS35	中山安宅
FS36	原　義広
FS36	本田文男
FS37	佐藤三千代
FS39	岡崎　旦
FS39	西田孝義
FS39	水町興司
FS39	早稲田　正
FS40	高倉重昭
FS41	溝添俊樹
FS41	毛利安喜
FS44	下川悦郎
FS44	遠矢良太郎
FS46	北村良介
FS50	辻　稔
FH3	小原　誠
SS24	田原富貴男
SS29	佐伯幸雄
SS29	橋口　勉
SS30	永田鉄山
SS32	永峯　隆
SS36	西田和幸
SS36	堀之内厚志
SS39	白石優一郎
CS24	岡田信夫
CS29	宇田川義夫
CS29	冨田裕一郎
CS30	内藤　敦
CS31	日高拓満
CS34	上山誠郎
CS34	小川泰雄
CS34	西迫順弘
CS34	長谷場　彰
CS34	藤本滋生
CS35	木谷素直
CS37	伊地知　亨
CS37	野上雅史
CS37	松尾茂久
CS38	竹添　進
CS39	田中慶秀
CS40	林　寿恵子
CS42	井川隼次
CS44	池邉雄二
CS47	加藤明美
CS49	森田耕造
CS50	西澤保孝
CS59	宇都宮裕子
CS60	神野容子
VS22	横田　修
VS29	吉山文蔵
VS32	山名孝善
VS33	藤田　滿

学科卒年	氏　名
VS33	堀之内達男
VS34	白石義明
VS36	野村浩平
VS37	石田文洋
VS37	大瀧武徳
VS37	尾下泰彦
VS37	金堂和生
VS39	福薗洲雅
VS40	飴本秀夫
VS43	谷口浩二
VS43	永瀬捷明
VS46	柳田興平
VS58	富永泰正
VS60	臂　博美
VH16	神谷　寿
VH20	片山真希
GS32	玉利道満
GS34	大六野貞雄
GS35	窪田孟弘
GS35	丸山孝男
GS35	宮川良幸
GS37	鮎川俊一
GS37	川井田　修
GS37	黒木　勇
GS37	野上眞八郎
GS39	後藤祐一郎
GS39	関　保喜代
GS40	中村征一
ZS45	村尾　実
ES43	松田國男
ES48	杉　光三郎
ES51	上林房行信
ES53	中原拓郎
HS48	冨永茂人
HS51	原　耕
HS55	井上　進
HS56	空閑宏典
HS56	児島三彦
HS59	中村秀人
生H 26	地村享瑛
環H 28	西橋修弘
AMS47	松本健治
CMS59	小路稔徳

あらた同窓会役員名簿

令和５年11月23日現在

顧　　問	寺岡　行雄（賛助）	
会　　長	藤田　晋輔（林37）	
副　会　長	浮津　　護（林38）	佐野　岩男（農49）
	田中　隆義（農59）	冨永　茂人（常任・園48）
監　　事	下川　悦郎（林44）	黒木　譲二（農47）
	菊川　　明（農48）	
常任幹事		
庶務担当	田浦　　悟（農59）	南　　雄二（化59）
会計担当	末吉　武志（農工平5）	
会報担当	樗木　直也（化58）	遠城　道雄（院農59）
	寺本　行芳（環平7）	
名簿担当	事務局	
広報担当	平　　瑞樹（農工62）	
幹　　事	坂井　教郎（賛助）	吉田 理一郎（賛助）
	奥山 洋一郎（賛助）	大塚　　彰（畜平1）
	花城　　勲（院農化平6）	下桐　　猛（賛助）
	鶴丸　博人（資平13）	一二三 達郎（獣平22）
評　議　員	大津　清司（農53）	南薗　　覚（農56）
	西田　和夫（農57）	大坪　弘幸（林45）
	田實　秀信（林58）	永田　鉄山（蚕30）
	大岩　勝徳（蚕36）	有村　卓郎（化56）
	星野　泰啓（化58）	新納　時英（獣44）
	佐々木 幸良（獣58）	中村　博大（畜43）
	吉嶺　彰二（農工52）	東久保 研一（園48）
	酒瀬川 洋児（園56）	東　　明弘（園57）
	大久保 祐司（生平6）	石橋 松二郎（資平6）
（役職指定）	各地域支部長	
	農学部副学部長および学科長	
	鹿児島支部幹事	

令和４年度一般会計決算書

（令和４年10月1日～令和５年９月30日）

収入額 12,508,605円　支出額 3,763,434円　繰越金　8,745,171円

収入の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
会費	4,780,000	3,914,200	865,800	
年会費	2,600,000	1,858,000	742,000	延べ　929名
入会金	2,080,000	1,984,000	96,000	新正会員 8名（24,000） 新入生 162名 （1,620,000） 卒業生 30名（300,000） 在校生 4名（40,000）
懇親会費	100,000	72,200	27,800	同窓会連合会懇親会費
賛助金	100,000	848,000	△748,000	拠出者　147名 C32の会
雑収入	100	50	50	利子
繰越金	7,746,118	7,746,118	0	
繰入金	2,000	237	1,763	基金利子
合計	12,628,218	12,508,605	119,613	

支出の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
会議費	170,000	35,019	134,981	
総会費	20,000	13,331	6,669	会場費（9,800） その他（3,531）
役員会費	150,000	21,688	128,312	幹事会、会計監査
事業費	1,970,000	1,244,616	725,384	
印刷費	500,000	420,998	79,002	学生向け会報（112,200） 春季号会報（279,378） 振込用紙印刷（29,420）
卒業祝賀会費	300,000	0	300,000	新型コロナ感染拡大のため中止
支部交付金	200,000	161,600	38,400	熊本（11,200）広島（3,600） 近畿（2,800）兵庫（1,600） 鹿児島（142,400）
旅費	200,000	0	200,000	
通信運搬費	700,000	612,018	87,982	会報送料（440,191） 振込手数料等（171,827）
講演会費	20,000	0	20,000	新型コロナ感染拡大のため中止
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和６年度実施予定
事務局費	2,060,000	1,586,689	473,311	
役員報酬	520,000	510,000	10,000	常任副会長（360,000） 幹事（150,000）
賃金	900,000	767,800	132,200	給料等
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	29,140	30,860	事務用品等
光熱水費	100,000	106,885	△6,885	電気（100,696） 上下水道（6,189）
通信運搬費	200,000	115,774	84,226	フレッツ光ネクストF隼 利用料（61,380） インターネット接続料（13,860） ハガキ・切手（34,518） 送料等（6,016）
賃借料	60,000	57,090	2,910	建物使用料 （R.5.4.1～R.6.3.31分）
慶弔費	60,000	0	60,000	
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	497,110	△297,110	HP作成代（374,000） 寸志（6,000） 同窓会連合会懇親会費（93,800） その他（23,310）
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,828,218	0	7,828,218	
合　　計	12,628,218	3,763,434	8,864,784	

令和４年度 同窓会名簿特別会計決算書

（令和４年10月1日～令和５年９月30日）

収入額 2,920,216円　支出額 1,227,830円　繰越金 1,692,386円

収入の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	22	28	利子
繰越金	2,620,194	2,620,194	0	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,920,244	2,920,216	28	

支出の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
名簿作成費	1,250,000	1,226,950	23,050	
名簿購入費	1,200,000	1,200,000	0	CD名簿　1,500枚
印刷費	50,000	26,950	23,050	卒業生名簿　500部
通信運搬費	5,000	880	4,120	
予備費	1,665,244	0	1,665,244	
合計	2,920,244	1,227,830	1,692,414	

令和４年度 功労者表彰特別会計決算書

（令和４年10月1日～令和５年９月30日）

収入額 284,361円　支出額 0円　繰越金 284,361円

収入の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
繰越金	234,359	234,359	0	
繰入金	50,000	50,000	0	令和４年度積立金
雑収入	20	2	18	利子
合計	284,379	284,361	18	

支出の部

項　目	予算額	決算額	差　異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	284.379	0	284.379	
合計	284.379	0	284.379	

あらた同窓会資産表

令和５年９月末日現在

基金特別会計		
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円
定期預金	南日本銀行	3,000,000円
普通預金	鹿児島銀行	601,567円
	合計	13,601,567円
一般会計		
普通貯金	郵便局	8,745,171円
名簿特別会計		
普通貯金	郵便局	1,692,386円
功労者表彰特別会計		
普通貯金	南日本銀行	284,361円
	総　計	24,323,485円

監 査 報 告 書

あらた同窓会令和４年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和５年10月16日

あらた同窓会

監　事　下川 悦郎

監　事　黒木 譲二

監　事　菊川 明

あらた同窓会

会　長　　藤 田 晋 輔　殿

令和５年度 一般会計予算書

（令和５年10月1日～令和６年９月30日）

収入額 13,227,271円　支出額 13,227,271円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会費	4,380,000	3,914,200	465,800	
年会費	2,200,000	1,858,000	342,000	延べ　1,100名
入会金	1,780,000	1,984,000	△204,000	新入生　10,000円×（175名） 新正会員　3,000円×（10名）
懇親会費	400,000	72,200	327,800	総会懇親会費(6,000円×50名) 同窓会連合会 懇親会費
賛助金	100,000	848,000	△748,000	賛助金
雑収入	100	50	50	利子等
繰越金	8,745,171	7,746,118	999,053	
繰入金	2,000	237	1,763	基金利子
合計	13,227,271	12,508,605	718,666	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会議費	470,000	35,019	434,981	
総会費	320,000	13,331	306,669	総会懇親会費　会場費等
役員会費	150,000	21,688	128,312	評議員会、幹事会、会計監査
事業費	2,570,000	1,244,616	1,325,384	
印刷費	500,000	420,998	79,002	会報（秋季号、春季号）
卒業祝賀会費	800000	0	800,000	祝賀会会場変更のため
支部交付金	200,000	161,600	38,400	各支部へ
旅費	200,000	0	200,000	支部総会出席等
通信運搬費	800,000	612,018	187,982	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和６年度実施予定
事務局費	2,100,000	1,586,689	513,311	
役員報酬	510,000	510,000	0	常任副会長・幹事
賃金	900,000	767,800	132,200	給料等
備品費	160,000	0	160,000	
消耗品費	60,000	29,140	30,860	事務用品等
光熱水費	150,000	106,885	43,115	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	115,774	84,226	フレッツ光ネクストＦ隼利用料 、切手･ハガキ等
賃借料	60,000	57,090	2,910	会館建物使用料
慶弔費	60,000	0	60,000	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	497,110	△297,110	
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,487,271	0	7,487,271	
合　計	13,227,271	3,763,434	9,463,837	

令和５年度 同窓会名簿特別会計予算書

（令和５年10月1日～令和６年９月30日）

収入額 1,992,436円　支出額 1,992,436円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	22	28	利子
繰越金	1,692,386	2,620,194	△927,808	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	1,992,436	2,920,216	△927,780	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿作成費	50,000	1,226,950	△1,176,950	
名簿購入費	0	1,200,000	△1,200,000	
印刷費	50,000	26,950	23,050	卒業生名簿　500部
通信運搬費	5,000	880	4,120	
予備費	1,937,436	0	1,937,436	
合計	1,992,436	1,227,830	764,606	

令和５年度 功労者表彰特別会計予算書

（令和５年10月1日～令和６年９月30日）

収入額 334,381円　支出額 334,381円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
繰越金	284,361	234,359	50,002	
繰入金	50,000	50,000	0	令和５年度積立金
雑収入	20	2	18	利子
合計	334,381	284,361	50,020	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
祝賀会費	0	0	0	
記念品費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
予備費	334,381	0	334,381	
合計	334,381	0	334,381	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

（目的）

第２条　本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

(1)　会報及び会員名簿の発行

(2)　農学部との連携及び協力

(3)　その他必要と認めた事項

（支部）

第４条　本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第２章　会　員

（会員）

第５条　本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

鹿児島高等農林学校卒業者

鹿児島農林専門学校卒業者

鹿児島大学農学部卒業者

鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者

学生会員

農学部及び大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

賛助会員

現賛助会員（現職教員）

旧賛助会員（退職教員）

２　会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第３章　役　員　等

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く。

(1)	会長	１名
(2)	常任副会長	１名
(3)	副会長	３名
(4)	評議員	若干名
(5)	監事	３名
(6)	常任幹事及び幹事	若干名
(7)	その他会長が認めた者	

（役員の選任）

第７条　会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

２　評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

３　幹事は、農学部のコース等から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表して会務を総理する。

２　常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

３　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

４　評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

５　監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。

６　常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

（役員の任期）

第９条　総会で選任された役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

（名誉会長及び顧問）

第10条　本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

２　名誉会長は会長が委嘱する。

３　農学部長は本会の顧問とする。

４　名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第４章　会　　議

（会議）

第11条　本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

（総会）

第12条　総会は、第５条第１項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

２　総会は、次に掲げる事項を審議する。

(1)　役員の選任に関する事項

(2)　事業計画及び事業報告に関する事項

(3)　予算及び決算に関する事項

(4)　会則の改廃に関する事項

(5)　その他会長が必要と認めた事項

３　総会は、会計年度開始から２ヶ月内に会長が招集する。

４　総会の議長は出席者の中から選出する。

５　議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（臨時総会）

第13条　臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

２　臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

（評議員会）

第14条　評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。

２　評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1)　総会に付議すべき事項

(2)　本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

（幹事会）

第15条　幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

２　幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

(1)　総会及び評議員会に付議する議案書の作成

(2)　本会が行う業務の具体的執行計画等

第５章　会　計

（経費）

第16条　本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

２　正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

３　学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

４　年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

（会計年度）

第17条　本会の会計年度は、10月１日から翌年9月30日までとする。

（監査）

第18条　監査は、会計年度ごとに行う。

第６章　事　務　局　等

第19条　本会の事務を処理するために事務局を置く。

２　事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

（雑則）

第20条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。
本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。
本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。
本会則は、令和５年11月23日より改訂施行する。

覚　書

１　過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

２　あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、５年毎に行う。

編 集 後 記

令和６年４月から農学部は一学科体制に改組され、（新）農学科に新入生を迎えることになります。ところでこの新体制の農学科の最初の卒業生（一期生）は、２年後の令和８年３月に卒業することをご存知でしょうか。在籍している学生がいない（新）農学科の３年生へ、編入学してくる学生が５人いるのです。おそらく彼らは、カリキュラム上１・２年次に履修する学部共通の科目などは新入生と一緒に受講しますが、３・４年次に受講する科目は現在のカリキュラムで開講されている科目を新カリキュラムの科目とみなす「読み替え」を行って必要な単位を取得し、同期生５人で卒業することになると思います。かなり不自然なことをしている感じは否めないでしょう。

なぜこのようなことになったかと言うと、もともと若干人（この言葉も一般には不自然かも知れません）募集ということで定員はない形で実施されていた編入制度に、令和６年度から定員５名が付くことになっており、これが丁度、改組と重なったのです。一般の感覚では令和６年度の編入生は現学科体制の３年生を募集して、令和６年に新３年生になる在籍生と一緒に２年後に卒業するのが自然なような気がします。ところが文部科学省の常識では、だれも在籍生のいない（新）農学科の３年生に編入するのが当然ということらしいです。

さすがにこれには違和感を持った先生方も多く、昨年度の教授会でこの話が議題になった時にはかなり反対意見を述べた方がいました。しかし当時の執行部は、文部科学省や大学当局の指示であるとして受け入れざるを得ないとのことでした。「おかしい」と思うことに対しては「おかしい」と主張しなければ、何も言えなくなってしまうのが怖いですけどね。

（文責 食料生命科学科 樗木直也）

鹿児島大学農学部
あ ら た 同 窓 会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目２１－２４
ＴＥＬ・ＦＡＸ　０９９(２８５)８５３７
e-mail：aratakai@aratadousokai.org
ホームページ:https://aratadousokai.org/
振　替　口　座　０２０１０－２－８７６
事務局の業務日　月・水・金(10:00～16:00)

印　刷　所　株式会社鹿児島新生社印刷
住　所　鹿児島市七ツ島 1-3-21
ＴＥＬ　099-261-0111
ＦＡＸ　099-261-3100
E-mail　kagoshima@shinsei-p.co.jp

南九州市頴娃町・釜蓋神社から見た開聞岳（福井泰好氏提供）